

第7章 資料編



赤穂城本丸跡の竹灯りライトアップ

1. 赤穂市の歴史文化一覧

地域に根差した歴史文化の視点

1. 赤穂義士ゆかりのまち
2. 城をつくるー赤穂城前史ー
3. 旧赤穂上水道
4. 現代に息づく城下町ー絵図をみて歩けるまち
5. 塩づくり発祥の地
6. 備前街道
7. 播磨と備前の国境
8. 開拓ものがたり
9. 塩田とともにー浅野家が開いた塩田ー
10. 赤穂藩と尾崎
11. 塩業の歴史を今に伝えるー東浜塩田ー
12. 御崎の信仰
13. 景勝・赤穂御崎
14. 古代の海人と秦河勝伝説
15. 港町・坂越
16. 伝承と信仰の山めぐり
17. 古代の謎
18. 村ごとの社寺と伝承
19. 高瀬舟と赤穂鉄道
20. 農業用水と赤穂城下の水甕
21. 里山の景観と村々の社寺
22. 東西・南北の交通ー近世山陽道と千種川ー
23. 古代の遺跡めぐりー文化財の宝庫ー
24. 夢のあとー山城と山岳寺院の風景ー
25. しぶらの里ー豊かな農村風景ー
26. 有年の先人に出会う旅

地域を越えた歴史文化の視点

27. 陸路・水路・海路の交通
28. 旧赤穂上水道をたずねて
29. 中世城郭と山岳寺院
30. 塩の道
31. 秦氏・渡来人伝承
32. 江戸時代の赤穂を歩くー『播州赤穂郡志』の世界
33. 秋祭りと獅子舞
34. 遺跡の宝庫
35. 赤穂のむかしばなし
36. 地名の生きるまち

赤穂を代表する歴史文化

1 千種川と瀬戸内海

2 まちなみと風景

3 塩の国

4 赤穂事件と忠臣蔵文化

5 まつりといのり

6 海の遺跡、山の遺跡

国指定文化財

赤穂城跡 あこうじょうあと

区分：記念物 種別：史跡 数量：190,405.17㎡
 管理団体：赤穂市
 指定年月日：昭和46（1971）年3月31日
 追加指定年月日：平成15（2003）年8月27日

【解説】

常陸国笠間から入封した浅野長直が、池田時代に築かれた城郭を基礎としつつ、慶安元(1648)年から寛文元(1661)年にかけて築城した城郭である。浅野家断絶後は永井家、森家の居城となった。

廃藩置県後は民間に払い下げられ、本丸には兵庫県立赤穂中学校(後の兵庫県立赤穂高校)が建設された。昭和46(1971)年の史跡指定後は公有地化が図られ、継続的な整備が行われている。

城郭総体がよく残され、大手門、水手門周辺等において軍学の影響が多く見られる点において、近世城郭史上、価値ある遺跡である。



国指定文化財

田淵氏庭園 たぶちしていえん

区分：記念物 種別：名勝 数量：4,384.28㎡
 所有者：個人
 指定年月日：昭和62（1987）年5月25日
 追加指定年月日：平成18（2006）年7月28日

【解説】

寛文13(1673)年以降、製塩業を営んだ田淵家が江戸中期に造営し、現在まで維持されてきたものである。建築、庭園ともに当代一流の造営がなされ、今日まで当時の姿をよくとどめている。

庭園は、茶亭露地と書院庭園からなり、三崎山の傾斜を利用して山際に茶亭「明遠楼」「春陰齋」を、平地に書院を配して構成されている。春陰齋を中心に、中潜りや腰掛待合が配され、上部の明遠楼と下部の書院を巧みにつないでおり、全体が一つの庭として見事に融合している。

平成18(2006)年5月19日敷地すべてが名勝に追加指定された。



国指定文化財

旧赤穂城庭園 本丸庭園 二之丸庭園 きゅうあこうじょうていえん ほんまるていえん にのまるていえん

区分：記念物 種別：名勝 数量：24,912.58㎡
 所有者：赤穂市
 指定年月日：平成14（2002）年9月20日

【解説】

本丸庭園は、本丸御殿南面の大池泉、中奥坪庭の小池泉、本丸北西隅の池泉で構成され、発掘調査によって見つかった遺構を整備し、公開している。

二之丸庭園は、本丸門前に占地する大石頼母助屋敷の南から二之丸西仕切にまでに至る大規模な廻遊式庭園である。発掘調査の成果を活かし、平成14(2002)年度より継続的な整備が行われている。なお、これらの庭園への給水は、千種川上流から取水された上水道によって賄われていた。

本庭園は、本丸と二之丸が一体となって保存される大名庭園であり、江戸期の庭園利用の一端がわかる点で重要である。



国指定文化財

生島樹林 いきしまじゅりん

区分：記念物 種別：天然記念物 数量：80,974㎡
 所有者：大避神社
 指定年月日：大正13（1924）年12月9日

【解説】

坂越湾に浮かぶ周囲2km余りの生島には秦河勝の漂着伝説があり、古来より秦河勝を祭神とする大避神社の禁足地であったことから、大避神社の神域として保全され、スダジイ、アラカシなどを優占種とする照葉樹林が分布している。

その樹種は190種と言われ、原始林として瀬戸内でも貴重な植性を保っているため、大正13(1924)年に国の天然記念物に、更に昭和32(1957)年には国立公園特別保護区に指定された。



記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財の選択

坂越の船祭り さこしのふなまつり

種別：記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財の選択

保護団体：坂越大瀬神社氏子会

選定年月日：平成4（1992）年2月25日

【解説】

坂越の海運業の発達とともに伝承されてきた船祭りであり、優雅で華やかな船団による船渡御祭は、海上にある御旅所に神輿が神幸する大規模な船祭りの典型例と考えられるものである。

瀬戸内海を代表する伝統的な船祭りとして注目され、「權伝馬」と呼ぶ2隻の手漕ぎの船による船競漕や若者たちによるバタカケなど多彩な構成要素が見られるとともに、頭人を中心とする祭祀組織にも地域的特色が顕著であり、我が国の祭礼文化やその変遷を理解する上で重要である。総合調査を経て、平成24(2012)年に国指定重要無形民俗文化財に指定された。



県指定文化財

旧日本専売公社赤穂支局 きゅうにほんせんばいこうしゃあこうしきよく

区分：有形文化財 種別：建造物 数量：3棟

所有者：赤穂市（管理者）民俗資料館

指定年月日：昭和61（1986）年3月25日 指定番号：197

【解説】

赤穂の塩は、奈良時代以来の歴史をもっている。本建築は明治38(1905)年の塩専売法の施行により設置された大蔵省赤穂塩務局の庁舎であり、同時に塩倉庫などの建築も開始され、明治41(1908)年6月に完成した。

昭和49(1974)年5月に赤穂市に譲渡され、昭和57(1982)年12月に市立民俗資料館として開館している。現在、旧事務所は本館、旧文書庫は資料庫、塩倉庫は収蔵庫として利用されている。

現存の建物はいずれも当時の建築であって、その保存状況もよく、日本最古の塩務局庁舎一連の遺構として、また明治建築史上においても重要である。



県指定文化財

地蔵立像板碑 じぞうりつぞういたび

区分：有形文化財 種別：考古資料 数量：1基

所有者：赤穂市（管理者）有年橋原中所地区

指定年月日：昭和62（1987）年3月24日 指定番号：44

【解説】

高さ175cm、幅165cm、厚さ30cm前後の花崗岩の表面中央部を彫りくぼめた中に像高66cm、裾幅25cmの仏体を刻んでいる。右手に錫杖、左手に宝珠をもつ。衣文は南北朝期の特徴を示している。

堂宇の中にあり保存状態は良好であるが、銘文はかなり磨滅している。延文3(1358)年の紀年銘をもち「地藏菩薩本願経」を引用している。中世の石仏では市内最大、唯一の紀年銘をもつもので貴重な文化財である。

なお、この石仏は地中に埋められたように見えることから「生えぬき地藏」あるいは転じて「歯抜き地藏」とも呼ばれている。



県指定文化財

銅鐸鑄型片 どうたくいがたへん

区分：有形文化財 種別：考古資料 数量：1口

所有者：赤穂市（管理者）歴史博物館

指定年月日：平成5（1993）年3月26日 指定番号：63

【解説】

この銅鐸鑄型片は鈕から舞の部分にあたり、外型の上半部分である。砂岩製で、長さ24cm、幅36cm、厚さ18.5cm、重さ23.2kgを測る。

文様は全体に彫りが浅く、一部磨滅して明瞭でないが、全体としてはほぼ確認できる。鑄型には変色も見られ、この鑄型で銅鐸が鑄造されていたことが推定される。復元される銅鐸の全長は80cmで、弥生中期の銅鐸としては最大級のものである。



県指定文化財

船祭り祭礼用和船（船倉1棟付き） ふなまつりさいれいようわせん（ふなぐらいつとうつき）

区分：民俗文化財 種別：有形民俗文化財 数量：6隻
所有者：大避神社
指定年月日：昭和60年（1985）3月26日 指定番号：34

【解説】

坂越は、漁労、廻船を主業として成立し、近世には赤穂藩の他藩との結節点として機能した。本物件は、港町坂越に伝わる大避神社の祭礼「坂越の船祭」（国重要無形民俗文化財）において、その中心的行事である神輿渡御に使用される神事専用の和船である。

現在の渡御に使用される和船は11隻あるが、のうち漕船2隻、楽船1隻、御座船1隻、警固船1隻、歌船1隻（当時）の計6隻が和船の特色をよく伝えるものとして指定を受けた。また付けたりとして、その船倉もあわせて指定されている。



県指定文化財

赤穂宝専寺恵比寿大黒舞 あこうほうせんじえびすだいこくまい

区分：民俗文化財 種別：無形民俗文化財 数量：—
所有者：宝専寺恵比寿大黒舞保存会
指定年月日：昭和47（1972）年3月24日 指定番号：14

【解説】

塩田で働く人々の間に受け継がれてきたもので、毎年正月に家々を回ってホギゴト（祝言など）を述べる門付祭芸人の遺風が伝わる。恵比須と大黒の面を被り、恵比須は大きい鯛を抱え、大黒は小槌を手にして、大ぶりの身ごなしで舞われる。

宝専寺には江戸中期頃から始まったと伝えられ、大正以降、しだいに廃絶しかかっていたのを、唯一の伝承者藤本茂吉氏によって復興され、再び全町内を廻り歩くようになった。面の製作は歌詞同様新しいが、これを被らないときは、御神体として祀り、二股大根と豆腐とを供物に供えるというのも一応記録に止めておくべきであろう。



県指定文化財

赤穂八幡宮獅子舞 あこうはちまんぐうししまい

区分：民俗文化財 種別：無形民俗文化財 数量：—
所有者：尾崎獅子舞保存会
指定年月日：平成17（2005）年3月18日 指定番号：41

【解説】

かつては千種川下流域一帯が氏子であった赤穂八幡宮の秋祭りにおいて、神社前で行なわれる芸能である。道中舞は、神輿の前を清めるためのもので、気性が荒い野獅子が眠っているところを太鼓の打ち出しにより覚醒させ、勇壮な鼻高が「露弘」の役として先導し、ともに悪霊を祓い清めながら進んでいくものである。

寛文2（1662）年の「神幸式次第」にはすでに獅子舞の名があり、現在使用している本太鼓は貞享5（1688）年製作のものという。数多くある播磨の獅子舞のほとんどが伊勢系であるなか、獅子頭の形や、鼻高が重要な役割を演じることが特異であり、県内でも例がないものとされている。



県指定文化財

みかんのへた山古墳 みかんのへたやまこふん

区分：記念物 種別：史跡 数量：1基
所有者：大避神社
指定年月日：昭和50（1975）年3月18日 指定番号：45

【解説】

みかんのへた山古墳（1号墳）は、赤穂市坂越の瀬戸内海を見下ろす標高80mの丘陵頂上にあり、麓より見上げると、こんもりとした円形の古墳がまるで「みかんのへた」のようにみえることから名付けられたという。

墳形は直径30m、高さ4mの円丘の北東部に、長さ約4mの造出が取りつく、全長34mの造出付円墳。葺石・埴輪を持ち、埴輪には円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪が確認されており、古墳時代中期前半（5世紀初頭～前半）に築造されたと推測される。平成25（2013）年の調査によって2号墳の存在が判明し、古墳群を形成していることが判明した。その立地から、古墳の被葬者は瀬戸内海交通を掌握した人物もしくは漁業などに従事した人物と推測されている。



県指定文化財

蟻無山古墳 ありなしやまこふん

区分：記念物 種別：史跡 数量：1基
 所有者：個人
 指定年月日：昭和50（1975）年3月18日 指定番号：46

【解説】

赤穂市有年原にある全長52mの中期古墳である。標高70mの蟻無山山頂に位置し、墳頂からは有年地区から上郡町、相生市までを望むことができる。

墳形は直径44m、高さ12mの円丘に造出部・突出部が取りつく「造出し付帆立貝形古墳」。葺石があるほか円筒埴輪・朝顔形埴輪と、馬・鳥・船・家・盾形の形象埴輪のほか、墳丘上より初期須恵器が採集されている。発掘調査が行われていないため、埋葬主体は不明である

周囲にはやや時期の新しい2・3号墳が確認されており、蟻無山古墳群を形成している。採集遺物から、1号墳は古墳時代中期前半（5世紀前半）に築造されたものと推測される。



県指定文化財

野田2号墳 のだにごうふん

区分：記念物 種別：史跡 数量：1基
 所有者：須賀神社（管理者）有年橋原野田地区
 指定年月日：昭和61（1986）年3月25日 指定番号：69

【解説】

本古墳は、有年橋原野田地区の共同墓地内にある横穴式石室古墳である。封土の大半は流失して、天井石が露出しているほか、石室の入口付近の天井石は一部欠けている。

石室は全長7.8m、そのうち玄室は長さ3.12m、幅1.77m、高さ2.5mを測り、玄門と扉石を備えているほか、閉塞石を残す。出土遺物から推察すると、この古墳の築造年代は6世紀後半～7世紀前半と考えられる。本古墳は玄門、扉石、三角持送りなど特異な構造をもつ石室であり、播磨地方でも貴重な古墳であると言える。背後に祇園山があるところから「祇園塚」とも呼ばれており、間仕切り等の特徴をもつ「祇園塚型石室」の標識遺跡となっている。



県指定文化財

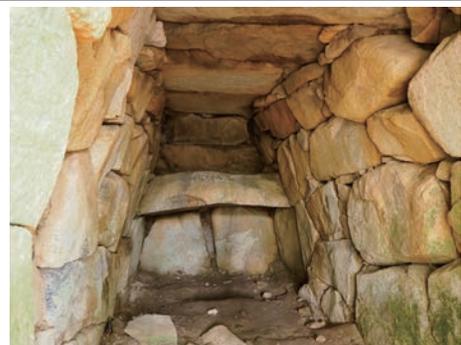
木虎谷2号墳 きとらだににごうふん

区分：記念物 種別：史跡 数量：1基
 所有者：個人
 指定年月日：平成2（1990）年3月20日 指定番号：76

【解説】

本古墳は、21基で構成される木虎谷古墳群中の1基である。墳丘は直径15.6m、高さ6.5mの円墳で、全長9.5mの両袖式横穴式石室をもつ。そのうち玄室は長さ5.3m、幅2.2mあり、市内最大の横穴式石室である。

奥壁には「棚」と呼ばれる石がはめ込まれており、その下にほぼ同じ大きさの板石が敷かれていたと伝えられることから、前方に蓋石を立て、側壁・奥壁を利用して石棺として用いたものと思われる。現在のところ出土資料はガラス玉のみであり、同様に棚をもつ上郡町船坂鳳張1号墳の出土須恵器の年代から、6世紀後半と推定されている。



県指定文化財

塚山6号墳 つかやまろくごうふん

区分：記念物 種別：史跡 数量：1基
 所有者：個人
 指定年月日：平成2（1990）年3月20日 指定番号：77

【解説】

塚山古墳群は、有年牟礼隠し谷にあり、総数56基の古墳が確認されている市内最大の群集墳である。広範囲に古墳の分布があり、第Ⅰ～Ⅲ支群に分けられている。

本古墳はⅠ-6号墳に該当し、塚山古墳群のうち最大のもので、墳丘の直径22.6m、高さ4mを測る。基本的な構造は全長10.3mの片袖式石室であるが、玄室のほぼ中央に門のような間仕切りが設けられているのが最大の特徴である。

羨道部付近で認められた数点の須恵器から、本古墳は6世紀後半から7世紀前半に築造されたものと考えられる。本古墳のように、間仕切りを設ける横穴式石室は珍しいが、塚山古墳群では、ほかに4例が知られている。



県指定文化財

有年原・田中遺跡 うねはら・たなかいせき

区分：記念物 種別：史跡 数量：6,188㎡
所有者：赤穂市
指定年月日：平成2（1990）年3月20日 指定番号：78

【解説】

本遺跡は、赤穂市立原小学校の南方に広がる微高地に位置する、弥生時代中期から室町時代まで続く複合遺跡である。弥生時代中期・後期の竪穴建物跡群、古墳時代の竪穴建物跡群、飛鳥・奈良・平安時代の掘立柱建物跡群等が検出されている。

特筆すべきは弥生時代後期の墳丘墓群であり、1号墓は周溝、陸橋、突出部を備えた直径約19mの墳丘をもつ。周溝内から出土した装飾壺・装飾器台は、後に出現する特殊壺・特殊器台の祖形と見られ、葬送儀礼に使用された供献土器であって、弥生墳丘墓とともに考古学史に残るものである。現在は遺跡公園として整備されている。



県指定文化財

東有年・沖田遺跡 ひがしうね・おきたいせき

区分：記念物 種別：史跡 数量：6,533㎡
所有者：赤穂市
指定年月日：平成4（1992）年3月24日 指定番号：85

【解説】

縄文時代後期から室町時代に至る複合遺跡で、東は千種川、西と南は長谷川、北は有年山に囲まれている。

縄文時代後晩期の豊富な土器や石器が出土しているほか、弥生時代中後期の竪穴建物跡や古墳時代後期の竪穴建物跡が多く発見されている。また古墳時代後期の横穴式石室墳が埋没した状態で見つかった。

これらの遺構や遺物は、編年や遺構の性格の解明および集落の形成や移動に関しても貴重な資料である。現在は遺跡公園として整備されている。



県指定文化財

黒崎墓所（附）黒崎墓所記・妙道寺過去帳 1冊

くろさきぼしょ（つけたり）くろさきぼしょき・みょうどうじかこちょう いっさつ

区分：記念物 種別：史跡 数量：188㎡のうち131.82㎡
所有者：赤穂市
指定年月日：平成4（1992）年3月24日 指定番号：86

【解説】

近世、上方（大坂）と瀬戸内・日本海とを結ぶ西廻り航路の成立とともに、坂越は諸国廻船の入港盛んな地となった。それに伴い、航海中に坂越浦海域で海難や病によって客死するものがあり、彼らは妙道寺の管理する墓所「他所三昧（船三昧）」に埋葬された。黒崎墓所に関する妙道寺の過去帳や関係浦状・取置証文等や、墓地にある墓石の銘を参照すると、北は出羽、南は種子島まで、大方の埋葬者の名・在所などの概要が判明している。

当墓所は、確かな史料で裏付けされており、港町坂越の歴史を物語る史跡として貴重である。



市指定文化財

六道絵 ろくどうえ

区分：有形文化財 種別：絵画 数量：16幅
所有者：誓教寺
指定年月日：平成19（2007）年3月30日 指定番号：50

【解説】

現世における善行と悪行の結果を強く意識させ、人々に印象づけるために描かれたのが「六道絵」である。

誓教寺に伝わる本図は全16幅からなり、制作は18世紀後半から19世紀前半頃と推測され比較的新しいが、全16幅という構成は他に例を見ない。内容は『往生要集』をほぼ正確に絵画化しており、箱書に「往生要集御絵」とある。三界六道の世界を詳細に描いているが、中でも地獄の場面が8幅におよび、大変克明に表現されているのが、本図の最大の特徴である。

この世における善行を説く仏の教えを見事に視覚化していると理解したい。また現在も絵解きが継承されていることが、とりわけ重要な点である。



市指定文化財

女房三十六歌仙画帖 によぼうさんじゅうろっかせんがじょう

区分：有形文化財 種別：絵画 数量：1帖
所有者：赤穂市教育委員会（管理者）美術工芸館田淵記念館
指定年月日：平成21（2009）年4月20日 指定番号：53

【解説】

女房三十六歌仙画帖は、代表的な女性歌人36人の絵姿と、その和歌を書いた1帖の画冊である。見開きの右に和歌を、左にそれぞれの女房の絵姿を描いている。女房の各図には「岑信筆(印)」(印影は「狩野」・白文)とあり、浜町狩野家初代狩野岑信(寛文2年～宝永5年・1662～1708年)と知られる。和歌の筆者は「女房歌仙御筆者目録」が付属しており、外題近衛基熙を含め、36人の公卿が1人1首ずつ書いている。

田淵家への伝来経路は不明であるが、明治以降に入手されたものと考えられる。



市指定文化財

仏涅槃図 ぶつねはんず

区分：有形文化財 種別：絵画 数量：1幅
所有者：個人
指定年月日：平成26（2014）年3月31日 指定番号：58

【解説】

絹本着彩で、丈167.7cm、幅172.8cmを測る。中央の宝台に頭を左にした釈迦が横たわり、図上右上には、忉利天から降りる摩耶夫人が描かれる。釈迦の横たわる宝台の周りには、諸菩薩や天部、弟子達、手前(画面下部)には、同様に釈迦の死を悲しむ動物達の姿が多数描かれている。通例の涅槃図の形式では、宝台の周りの沙羅双樹が宝台の後ろに右と左に4本ずつ描かれているが、本図では、2本ずつ配される。そして、全面を大きく空け、諸菩薩・天部、さらには多くの動物の嘆き悲しむ姿が描かれている。

本図の制作年代は、鎌倉時代末から南北朝期(14世紀前半)と推測される。



市指定文化財

当麻曼荼羅図 たいままだらず

区分：有形文化財 種別：絵画 数量：1幅
所有者：個人
指定年月日：平成26（2014）年3月31日 指定番号：59

【解説】

当麻曼荼羅図は、奈良県当麻寺に伝わる根本曼荼羅の転写本である。大きさは、縦394.8cm、横396.9cmで、ほぼ正方形の大幅である。

図様は『観無量寿経疏』にもとづいて描かれたもので、中央に阿弥陀如来、左右に普賢菩薩、観音菩薩の三尊を中心に極楽の世界を表現している。

図の下辺の九区画には、九品来迎図が描かれ、その中央の区画には銘文が書かれているが、本図では文字が欠落していて一部しか書かれておらず、原図からの転写本とみられる。制作は、16世紀後半から17世紀前半の絵仏師系と推測される。



市指定文化財

木造不動明王立像 もくぞうふどうみょうおうりゅうぞう

区分：有形文化財 種別：彫刻 数量：1躯
所有者：神護寺（管理者）如来寺
指定年月日：昭和56（1981）年9月1日 指定番号：1

【解説】

像高108cmで、一木彫成、背削りを施す。両手は肩部で短く。頂蓮は前半を欠き、右手首より先は失われ、両足先は虫食いのためひどく朽損している。

光背の修理墨書銘によれば、木像は慈覚大師(円仁)の作と伝え、もと赤穂郡周世郷の高雄山神護寺清籠院護摩堂の本尊であった。寛文3(1663)年から延宝2(1674)年頃にかけて、領主浅野長直の援助を契機として再興された際に修補が行われたと推定され、当時は台座・光背などを新造して安置していた。

虫害による損傷、蓋板の欠損、像容はすこぶる損じているものの相貌・体軀・衣文に古様を存し、堂々たる風格を残しており、平安時代後期の優れた木像であったと推測される。



市指定文化財

木造毘沙門天立像 もくぞうびしゃもんてんりゅうぞう

区分：有形文化財 種別：彫刻 数量：1軀
所有者：神護寺（管理者）如来寺
指定年月日：昭和56（1981）年9月1日 指定番号：2

【解説】

像高108cm、寄木造で、頭・体の幹部をとおして前後に刳ぐ。後頭部の一部は欠失している。両肩先及び足の部分は特に傷みが甚だしく、その他にもいたるところに修補のあとが見られる。右胸部のごとく、穴のあいたところに埋め木したところもある。右手指先は欠失し、左手首よりさき、天衣等も後補である。武装忿怒形をとるが相貌は温和となり、胸甲・腹甲・裳・天衣等の彫法も浅くおだやかである。

神護寺の寺伝にあるように、文覚の再興と関係づけることができるかどうかは、わからないが、本像が平安時代末期の製作にかかるとだけは確かである。



市指定文化財

木造菩薩立像 もくぞうぼさつりゅうぞう

区分：有形文化財 種別：彫刻 数量：2軀
所有者：大津八幡神社（管理者）歴史博物館
指定年月日：昭和59（1984）年3月31日 指定番号：5

【解説】

かつて大津八幡神社薬師堂にある薬師如来像の両脇付として安置されていた。それぞれ「日光菩薩立像」、「月光菩薩立像」と呼ばれ、どちらも一木彫成像で左手を屈臂し、像高も57.0cm、58.2cmとほぼ同一である。

本来、薬師如来の両脇付としての日光・月光菩薩像は、左右対称であることが通例であるため、本資料は本来の日光・月光菩薩像ではない。また、材質が古様を示す月光菩薩像は平安時代後期の制作として、日光菩薩像はその後の写しである可能性も指摘されている。それぞれに後補の痕跡も多く認められるが、貴重な文化遺産と言える。



市指定文化財

船賃銀定法（付）大西家文書一括 ふなちんぎんじょうほう（つけたり）おおにしげもんじょいっかつ

区分：有形文化財 種別：古文書類 数量：1面
所有者：個人
指定年月日：平成7（1995）年5月25日 指定番号：18

【解説】

大西家は坂越で廻船業を営み、18世紀に飛躍的に発展した家柄である。元文4（1739）年の「船賃銀定法」は、181cm×25.3cmの板に全国各地への船乗り賃銀定を朱漆書きしたものであり、これに附帯する大西家文書は、同家所持の廻船、営業利益の状況、各地への舟賃のほか、舟手条目、坂越仲間や赤穂の一般廻船のことなど、相当量の赤穂廻船史料を含んでおり、「船賃銀定法」とともに非常に貴重な資料である。



市指定文化財

真殿村検地帳（付）真殿村方文書一括 まとのむらけんちちょう（つけたり）まとのむらかたもんじょいっかつ

区分：有形文化財 種別：古文書類 数量：12冊（528点）
所有者：真殿自治会（管理者）赤穂市
指定年月日：平成9（1997）年3月31日 指定番号：27

【解説】

本文書は、文禄3（1594）年以降、昭和30（1955）年代に至る長期にわたる真殿の村方文書である。文禄3年の検地帳は、おそらく現存唯一の宇喜多氏の村検地帳であり、播磨一国（16郡）に残る太閤検地帳としても、他に1冊あるのみの数少ない資料である。

村方をめぐる領主の領民支配の推移をたどりうる資料がすべてそろっている村は、播磨においては真殿村をおいて外になく、その他、村明細帳や田畑ならびに山林原野の地租改正関係資料等がそろっており、本文書は村方資料としてきわめて貴重である。



市指定文化財

榎原村文書及び榎原自治会文書 ならばらむらもんじょおよびならばらじちかいもんじょ

区分：有形文化財 種別：古文書類 数量：2,458点
所有者：有年榎原自治会（管理者）赤穂市
指定年月日：平成10（1998）年4月27日 指定番号：30

【解説】

榎原村は、慶長20(1615)年から明治4(1871)年の廃藩まで赤穂藩領として存続した村であり、明治22(1889)年に有年村に、昭和30(1955)年には赤穂市に編入され、有年榎原地区として今日に至っている。

榎原村文書は、近世・近代にわたる文書1,083点、榎原自治会文書は、主として近現代の文書1,375点からなる。長年にわたる御用御触書帳、土地開発・検地・検見・割割・年貢・物成・諸入用さらには宗門改帳など、村方の状況を知らしめる多年にわたる史料が連続して残されているほか、田畑ばかりでなく、山林原野の地租改正、地価修正に関する帳簿も西播地域では珍しく揃って残されているなど、史料的な価値は高い。



市指定文化財

原村文書 はらむらもんじょ

区分：有形文化財 種別：古文書類 数量：一括
所有者：有年原自治会（管理者）赤穂市
指定年月日：平成12（2000）年3月31日 指定番号：38

【解説】

有年原は市の北部、千種川と矢野川の合流付近北側に位置し、西川・原・田中・北島の集落からなる。肥沃な農地に恵まれ、古代より農業を生業とした。近世において、正保2(1645)年からは赤穂浅野藩領になったが、赤穂事件後は幕府領(天領)に編入され、代官支配のまま維新を迎えた。

本文書は寛永2(1625)年以降、昭和元(1925)年に至る村方文書(村会所文書)で、なかでも土地関係では江戸時代を通じての土地台帳が保存されている。また山陽道の宿場(東有年)に隣接し、千種川水運の中継地でもあったため、交通運輸に関する通達書などの史料も多い。



市指定文化財

田淵家文書 たぶちけもんじょ

区分：有形文化財 種別：古文書類 数量：一括
所有者：赤穂市教育委員会（管理者）田淵記念館
指定年月日：平成17（2005）年3月24日 指定番号：44

【解説】

田淵家は、家業(塩田経営・塩問屋・薪問屋)のほかに金融業(大名貸1船手貸)や廻船経営までもに進出し、安永～文化(1772～1817年)頃には東西あわせて106町歩を所有する日本最大の塩田地主であった。

本文書は、赤穂塩田における最大の塩業者であった田淵家が所蔵していた諸文書類を一括したものである。史資料件数1,137件のなかには田淵家の家産(経営)関係に関する諸帳簿類が多く含まれており、また代々当主がとくに茶道に造詣が深かったこともあって、芸能に関する諸冊子をはじめ、藩主の御成りに関する諸記録も多く残されている。



市指定文化財

真光寺旧蔵・柴原家文書 しんこうじきゅうぞう・しばはらけもんじょ

区分：有形文化財 種別：古文書類 数量：一括
所有者：赤穂市教育委員会
指定年月日：平成18（2006）年3月30日 指定番号：48

【解説】

当文書は、西浜塩田最大の塩業者であり、かつ近世において赤穂藩の御蔵元役として藩財政の一翼を担い、代々塩屋村大庄屋を世襲していた柴原家ゆかりの古文書類である。明治39(1906)年に同家が破産した時、古文書の散逸を憂いた真光寺住職が譲り受けて保管していたもの。元和7(1621)年から明和36(1903)年までの記録が残され、その点数は1万1千点を超える。

同文書のうち、中核をなすのは『柴原家年中用事控』で、寛延元(1748)年から慶応元(1865)年まで、義民・安常・安迪の三代120年におよぶ記録である。その内容は蔵元役として関わった藩財政改革や大庄屋としての役割のこと、塩田地主・塩問屋としての経営に関する事など広範囲にわたる。



市指定文化財

花岳寺山門 かがくじさんもん

区分：有形文化財 種別：建造物 数量：1棟
所有者：花岳寺
指定年月日：平成元（1989）年3月30日 指定番号：13

【解説】

この山門はもと、赤穂城下町の西惣門であったが、明治6(1873)年に花岳寺の二十一代仙珪和尚が購入、山門として移築したものである。

赤穂城築城当時のものではなく、森時代の建築と推定されるが、現状で門幅12尺1寸3分(約3.7m)、門高13尺8寸(約4.2m)を測る高麗門で、西惣門の遺構らしく一般的な装飾が一切なく、武家門の風格を備えている。市内に残る城郭付属建築として唯一の遺構として貴重である。

なお、この門より南のまちなみは、有力町人や札座、町会所によって占められ、ここを墓参の大名行列が通るため「御成道(おなりみち)」とも称されたという。



市指定文化財

旧坂越浦会所 きゅうさこしうらかいしょ

区分：有形文化財 種別：建造物 数量：1棟
所有者：赤穂市
指定年月日：平成4（1992）年4月30日 指定番号：17

【解説】

この建物は、かつての坂越浦の会所建築であり、それと同時に赤穂藩の茶屋の性格を合わせもっていた。天保3～4(1832～1833)年に建築され、藩主やその家族ならびに赤穂藩の奉行達が休憩や宿泊に利用していたことが『会所日記』に記されており、2階の「観海楼」は藩主達専用の部屋であったという。昭和6(1931)年に公会堂として改修されているが、文献から建築年代や使用の実態が詳細に判明し、かつ港町坂越のシンボルであることから、指定を受けた。

赤穂市では平成4(1992)年度から一部解体修理を実施、平成6(1994)年から一般公開している。



市指定文化財

妙見寺観音堂 みょうけんじかんのんどう

区分：有形文化財 種別：建造物 数量：1棟
所有者：妙見寺
指定年月日：平成9（1997）年3月31日 指定番号：28

【解説】

妙見寺は、盛時には16坊5庵を抱えた山岳寺院であったが、嘉吉の乱等を経て荒廃、明応3(1494)年に再興したと伝わる。近世には坂越港の繁栄とあいまって寺運も隆盛したが、明治の神仏分離令より縮小し、今日に至る。

当観音堂は万治2(1659)年に、妙見寺の奥の院として宝珠山上に建立されたが、後に大破し享保7(1722)年に現在地に再建されたものである。なお昭和56(1981)年には解体修理が実施されている。

建物の特徴は、近世寺社のなかでは全国的にも例の少ない懸造の形式にあり、さらに外陣ならびに正面の縁から坂越湾の絶景が望めるよう、建物形式を活かして建設位置を巧みに選んでいることにある。



市指定文化財

近藤源八宅跡長屋門 こんどうげんぱちたくあとながやもん

区分：有形文化財 種別：建造物 数量：1棟
所有者：赤穂市
指定年月日：平成10（1998）年4月27日 指定番号：31

【解説】

本建物は浅野時代の藩士、近藤源八屋敷跡に残る建物の一部である。古記録によると本来、この長屋門は幅18間半(33m)の規模をもっていたとされるが、現在は失われ、およそ3分の1が残されているのみである。さらに長屋門は後世には複数の侍による分割居住が行われており、内部の改変は著しかった。

赤穂城内において近世の建築遺構はわずかに大石内蔵助長屋門と本遺構としかなく、城内の侍屋敷を知ることでできる数少ない貴重な遺構であること、また大手門から城内に入った最初の侍屋敷の建物であり、大石家の長屋門と対面してかつての城内の侍屋敷の構えを今日に伝え、景観的にも貴重な遺構であることから、指定後に一部解体修理を実施し、一般公開している。



市指定文化財

石造宝篋印塔 せきぞうほうきょういんとう

区分：有形文化財 種別：建造物 数量：1基
 所有者：光明寺
 指定年月日：平成11（1999）年11月19日 指定番号：32

【解説】

黒沢山光明寺は、かつて東有年の黒沢山頂に建ち、盛時には30数坊の塔頭をもつ大寺院であったという。現在の光明寺は文政2（1819）年に山裾の東有年字片山に移り、山頂は奥の院と称して近年、大師堂と庫裏が建築された。

山頂には、宝篋印塔や五輪塔が多数散在しており、平成元（1989）年頃にその中の1基の宝篋印塔から銘文が検出された。正面の左東部に「金剛佛子良円」右東部に「建武二年亥乙五月日」の銘文がある。建武2（1335）年は南北朝最初期の年号で、各部様式もその時代相を示し、相輪を除きほぼ完存しているのは貴重で、兵庫県下の宝篋印塔で現在までに知られているものでは、本塔は第5位の古さを誇る。



市指定文化財

石造題目笠塔婆 せきぞうだいまくかさとうば

区分：有形文化財 種別：建造物 数量：1基
 所有者：光明寺
 指定年月日：平成11（1999）年11月19日 指定番号：33

【解説】

黒沢山山頂の光明寺跡にある石造物の1基に、紀年銘のある題目笠塔婆があり、別石の宝篋印塔の笠や五輪塔の風・空輪が積み上げられている。

花崗岩製で、塔身部は幅18.5×17cm、高さ40cmの方柱で、頂部面に直径7cm、高さ2.6cmの柄（ほぞ）とみられる半円形の突起があることから、笠塔婆であることがわかる。塔身は正面だけに輪郭を巻き他の3面は素面としており、正面に「妙法蓮華経」背面に「康永四年乙酉七月十三日」の刻銘から、南北朝時代前期の康永4（1345）年に造立されたことが知られる。

兵庫県下の在銘笠塔婆では、本塔は8番目の古さで、光明寺が鎌倉末期から南北朝期にかけて、寺勢が盛んだったことを示す貴重な遺物と言える。



市指定文化財

石造五輪塔 せきぞうごりんとう

区分：有形文化財 種別：建造物 数量：1基
 所有者：個人
 指定年月日：平成11（1999）年11月19日 指定番号：34

【解説】

西有年字向山の、旧西国街道沿いの山裾にあり、花崗岩製の、等身大を超えようかという堂々たる完存塔で、一見して中世五輪塔であることがわかる。

高さ約165cm、地輪は幅58×58.5cm、高さ52.4cm、水輪は最大径57.5cm、高さ49.3cm。各輪には大ぶりの四門の梵字を薬研彫りにし、書体も悪くない。残念ながら無銘だが、これらの様式や手法から見て鎌倉時代末期から南北朝時代初期にかけてのものと推測される。造立時期の古さ、規模の大きさ等から見ても、播磨地方では一級品である。



市指定文化財

石造宝篋印塔 せきぞうほうきょういんとう

区分：有形文化財 種別：建造物 数量：1基
 所有者：赤穂市
 指定年月日：平成12（2000）年3月31日 指定番号：36

【解説】

西有年の旧西国街道沿いの集合墓地に隣接してある。もとは300mほど西の街道南にあったが、平成5（1993）年3月にほ場整備の際に撤去され、同7（1995）年3月に現在地へ移築。花崗岩製で、相輪を欠失し、かわりに五輪塔の空・風輪を載せている。相輪部を除く高さは103cm。一見3段の基壇に見えるが、当初は上部に返花座つきの基壇および切石の基壇の二重基壇であった。

紀年銘がないが、隅飾突起の反りや切り込みの具合、塔身内の月輪や梵字の大きさ、薬研彫りの彫法、反花座の蓮弁の様式、基礎の格狭間の形などから見て、南北朝時代中期後半頃の14世紀から15世紀初頭にかけての制作と推測される。



市指定文化財

有年家長屋門 ありとしけながやもん

区分：有形文化財 種別：建造物 数量：1棟
 所有者：個人
 指定年月日：平成15（2003）年4月22日 指定番号：41

【解説】

有年家は江戸時代に大庄屋を務めた家柄であり、旧西国街道沿いに建つ長屋門は、有年家の屋敷構えの一部をなすもので、18世紀末の建築とされる主屋の玄関口に位置する。

木造平屋建て入母屋屋根の構造をもち、桁行5間(約10m)、梁間2間半(約5m)を測る。斜面に築かれているため正面は石垣によって土台が築かれ、背面は礎石建てとしている。古瓦や伝承から文化年間(1804～1817)の建築と考えられている。

市内に残る江戸期の長屋門は、城内を除けば本例のみであり、主屋と一体となって赤穂藩の庄屋の屋敷構えを残す貴重な文化財である。



市指定文化財

大蓮寺山門 だいにんじさんもん

区分：有形文化財 種別：建造物 数量：1棟
 所有者：大蓮寺
 指定年月日：平成16（2004）年4月20日 指定番号：42

【解説】

開山は、釈道和尚(天文元(1532)年没)。当初は雄鷹台の山麓にあったと言われ、元和元(1615)年～寛永18(1641)年には現在地に所在していたと考えられる。

建設年代を推定する史料は瓦刻銘の「明和己丑六年」だけであるが、簡素な細部意匠、部材の風触などからみて明和6(1769)年頃の建物としてよいと思われる。本建物は一般的な門形式に該当しない特異な形式を持ち、市内の寺院のなかでは規模が雄大で、また江戸時代前半期を代表するような簡素な彫り物も門全体の意匠を品位のある優れたものに行っていることから、市内では貴重な建築遺構である。



市指定文化財

じんごせきぞうぶつ 神護寺石造物
 おおいよしたかきしんてあらいいし 大石良欽寄進手洗石
 おおいよししげきしんいしどうろう 大石良重寄進石燈籠
 おおいよしたかきしんいしどうろう 大石良雄寄進石燈籠

区分：有形文化財 種別：建造物 数量：5基
 所有者：神護寺（管理者）如来寺
 指定年月日：平成22（2010）年8月24日 指定番号：55

【解説】

神護寺は寛文3(1663)年に山王権現の神宮寺として浅野長直(赤穂浅野家初代藩主)によって再建された。手洗石は大石内蔵助良欽が寄進したもので、寛文5(1665)年の銘が見られる。石燈籠は大石頼母助良重・内蔵助良雄両者の寄進で、それぞれ寛文6(1666)年、貞享4(1687)年の銘がある。

良欽、良重寄進の石造物は、赤穂城完成(1661年)から間もなくであり、当地が赤穂城の鬼門にあたることから、築城工事の完成記念、浅野家等の武運長久を祈願して寄進したと考えられる。良雄寄進の石燈籠も含めて、山王権現社(神護寺)と藩主浅野家及び家老大石家との密接な関係を窺わせるものである。



市指定文化財

鳥井町地藏堂（付）石造地藏坐像及び名号石 とりいちょうじぞうどう（つけたり）せきぞうじぞうざぞうおよびみょうごうせき

区分：有形文化財 種別：建造物 数量：1棟
 所有者：鳥井自治会
 指定年月日：平成23（2011）年3月31日 指定番号：56

【解説】

『妙道寺旧記』によれば、元禄11(1698)年に鳥井坂の火葬場に石造の地藏菩薩坐像が造られ、享保6(1721)年に地藏堂が建立されたという。明治25(1892)年に火葬場跡の土地整理が行われた際、地藏像、地藏堂、名号石は現在地に移転した。

明治25(1892)年と平成9(1997)年に改造、修理が行われているが、建築的価値を示す細部はよく残されており、原形をよくとどめている。堂前にある花崗岩製の名号石は、『妙道寺旧記』によると地藏堂が建造された翌年の享保7(1722)年に建立されたものという。



市指定文化財

有年考古館収蔵考古資料 うねこうこかんしゅうぞうこうこしりょう

区分：有形文化財 種別：考古資料 数量：1,250点
 所有者：赤穂市教育委員会
 指定年月日：昭和63（1988）年3月30日 指定番号：10

【解説】

有年考古館は、松岡秀夫が昭和25（1950）年に設立した考古・民俗の私設資料館である。設立者松岡秀夫は、旧赤穂郡域（現在の赤穂市、相生市、上郡町）が播磨・吉備両域の接境地帯として重要な歴史的位置を占めながら、播磨国風土記において当郡の部が欠落して遺されていないことを遺憾とし、資料を収集保存して郷土史の学術的研究に資し、また公開展示して後継を育成するために考古館を設立した。収集された考古資料のうち、旧赤穂郡に関する1,250点が赤穂市指定文化財となっている。

なお平成23（2011）年からは考古館と資料は赤穂市に一括寄贈され、赤穂市立有年考古館として運営されている。



市指定文化財

有年原・田中遺跡出土柱部材 うねはら・たなかいせきしゅつどはしらぶざい

区分：有形文化財 種別：考古資料 数量：1点
 所有者：赤穂市教育委員会
 指定年月日：平成17（2005）年3月24日 指定番号：45

【解説】

有年原・田中遺跡で出土した弥生時代後期の建築部材で、全長196cm、直径22cmを測るヒノキの柱部材である。柱頭部分に横架材を受ける欠込みがあり、側面の両側には約30cm間隔で交互に向きを変え、3段と2段の5段に貫穴が穿たれている。柱尻部の貫穴の中程で折損しているために元の全長は不明であるが、この残存部分が地上に構築されていた柱部であり、地中に埋められていた柱部分は失われている。

建築部材の出土することの少ないこの時代において、建築史を考えるうえで重要な資料となっている。



市指定文化財

西有年・長根遺跡出土木摺臼 にしうね・なごねいせきしゅつどきずりうす

区分：有形文化財 種別：考古資料 数量：1組
 所有者：赤穂市教育委員会
 指定年月日：平成17（2005）年3月24日 指定番号：46

【解説】

木摺臼は上臼（雌臼）、下臼（雄臼）の対で一組をなすもので、本遺物はその上臼（材質・二葉松）である。2人が臼の左右に対座して、上臼の中程に掛けられた藁縄を交互に引っ張ることにより、臼は半回転ずつ逆回転する。この反復作業を繰り返すことにより、上臼内に入れられた脱穀した粳が粳殻と玄米に分別される装置で、直径36～46cm、高さ24cmを測り、臼内の中程には軸受け板が残存している。この軸受け板は、下臼より突き出した芯棒を確実に受け止め、上臼の回転運動を安定させ、作業を可能にするものである。

井戸遺構で伴出した遺物等から考察して室町時代の所産であり、出土資料としては我が国最古のもので、極めて貴重な考古資料である。



市指定文化財

有年原・田中遺跡墳丘墓出土土器 うねはら・たなかいせきふんきゅうぼしゅつどき

区分：有形文化財 種別：考古資料 数量：一括
 所有者：赤穂市教育委員会
 指定年月日：平成21（2009）年4月20日 指定番号：54

【解説】

有年原・田中遺跡は、弥生時代中期から室町時代に至る複合遺跡である。

墳丘墓出土土器は、いずれも墳丘墓の周溝内外にかけて出土した供献土器と考えられる装飾壺・装飾器台・大型装飾高坏などである。大型装飾高坏はほぼ完形に復元されているが、装飾壺・装飾器台は大半が破片である。

陸橋部と突出部をもつ1号墳丘墓は前方後円墳の祖形とも言えるもので、後の埴輪へとつづく装飾土器祭祀を行っていることとあわせ、日本の弥生時代から古墳時代への移り変わりを物語るうえで欠かせない考古資料である。



市指定文化財

義士墨跡並びに富森助右衛門筆記 ぎしぼくせきならびにとみのもりすけえもんひっき

区分：有形文化財 種別：歴史資料 数量：2巻
所有者：赤穂市教育委員会（管理者）歴史博物館
指定年月日：平成7（1995）年5月25日 指定番号：19

【解説】

義士墨跡は、赤穂事件の後に熊本藩細川綱利邸に預けられた大石以下の義士から、同藩家中堀内伝右衛門が所望した手蹟を張り合わせて1巻としたものである。

富森助右衛門筆記は、富森が熊本藩御預け中の元禄16(1703)年正月24日、同じく堀内伝右衛門の求めに応じて、討入とその翌日の行動について記した筆記である。吉良の首級をあげる場面については磯貝十郎左衛門による加筆を受け、それを富森が改めて浄書したのが本筆記である。討入の状況を当事者が記したのとして最も詳しく、赤穂市を代表する歴史を物語るうえで欠かせない好史料である。



市指定文化財

木造浅野赤穂藩主坐像（付）厨子3基 もくぞうあさのあこうはんしゅぎぞう（つげたり）ずしさんき

区分：有形文化財 種別：歴史資料 数量：3軀（付）厨子3基
所有者：光浄寺（管理者）新田自治会
指定年月日：平成7（1995）年5月25日 指定番号：20

【解説】

赤穂市新田の光浄寺に安置されている、浅野家三代の藩主像である。光浄寺のある新田は、初代藩主浅野長直が正保3(1646)年から干拓事業を開始して慶安3(1650)年に開村した戸島新田村を前身としている。

坐像のうち初代と二代はほぼ同時期の頃の作、三代像は幾分時期が異なると考えられるが、江戸時代に京都の仏師作家の手によって制作されたと推定され、18世紀後半の所産と考えられる。

なお光浄寺は元文2(1737)年に創建されたことが明らかで、浅野長直の命日にあたる8月24日には現在も「たくみさん」と称して法要が行われている。



市指定文化財

黒尾須賀神社義士画像図絵馬及び奉納額 くろおすがじんじゃぎしがぞうずえまおよびほうのうがく

区分：有形文化財 種別：歴史資料 数量：50面
所有者：有年牟礼黒尾地区（管理者）歴史博物館
指定年月日：平成8（1996）年3月29日 指定番号：22

【解説】

牟礼東村の立花氏の発起で、立花林兵衛・同伊三郎・柏木与三右衛門を世話人として調製され、嘉永2(1849)年、有年牟礼黒尾の須賀神社に奉納された絵馬である。義士絵馬49面と奉納額、合わせて50面が奉掲されており、絵師は京狩野派の菅原永得で、奉納者はいずれも牟礼東村の住人である。

旧赤穂郡内に所在する24の義士絵馬のうち、本史料は旧赤穂藩領ではないものの最古であり、義士のまち赤穂市にとって、欠かせない歴史史料である。

なお長年風雨にさらされて顔料や文字が薄れてしまったため、平成28(2016)年に赤穂市立歴史博物館へ寄託された。現在、絵馬堂にはレプリカが展示されている。



市指定文化財

木生谷三宝荒神社義士画像図絵馬（付）牽馬図絵馬 1面 きゅうのたにさんぼうこうしんじゃぎしがぞうずえま（つげたり）けんばずえまいちめん

区分：有形文化財 種別：歴史資料 数量：48面
所有者：木生谷三宝荒神社
指定年月日：平成8（1996）年3月29日 指定番号：23

【解説】

本絵馬は、四十七士に菅野三平像を加えた計48面が見られる。大石内蔵助良雄像、大石主税良金像、菅野三平像には「義信」の落款が見られ、内蔵助像には奉納時期を示す「慶応元乙丑季(1865年)九月」の年記を読み取ることができる。また、絵馬には奉納者の名前が記されており、木生谷及び周辺の在住名者や集団名が見られる。

この義士画像図絵馬は、赤穂藩領に所在する江戸時代唯一のものであり、四十七士全員の絵馬が漏れることなく残されている。絵師は赤穂出身の法橋として著名な長安義信であり、義士の町、赤穂市にとって格好の歴史資料・美術史料として非常に価値が高い。



市指定文化財

三十六歌仙絵扁額 (付) 布袋図絵馬 1面 さんじゅうろっかせんえへんがく (つけたり) ほていずえまいちめん

区分：有形文化財 種別：歴史資料 数量：6面
所有者：周世自治会 (管理者) 歴史博物館
指定年月日：平成11 (1999) 年11月19日 指定番号：35

【解説】

この扁額は、寛文6(1666)年に浅野長直によって、周世にある高雄山の神護寺に奉納されたものである。扁額絵は、藩主の奉納物にふさわしく、板面に金箔を貼りつめ、その上に扁額1枚に6名ずつの歌仙が濃彩によって描かれている。また6枚の扁額のうち2枚の裏面には、奉納当初と考えられる墨書が認められる。

各歌仙がやまと絵的手法によりながら、それぞれに個性豊かな相貌で表されていて、江戸時代初期の作風を伝えるものである。



市指定文化財

赤穂東浜信用購買利用組合文書 あこうひがしはましんようこうばいりようくみあいもんじょ

区分：有形文化財 種別：歴史資料 数量：一括
所有者：赤穂市教育委員会 (管理者) 歴史博物館
指定年月日：平成12 (2000) 年3月31日 指定番号：37

【解説】

赤穂東浜は、近世初頭から入浜塩田による本格的な製塩が開始され、専売公社の発足した明治時代後期には面積152町4反2畝21歩、生産高133,000石を誇った。

専売制度下の大正13(1924)年、赤穂東浜信用購買利用組合が成立したが、この組合の昭和47(1972)年の解散までの約半世紀の記録がこの文書であり、日本の製塩業における激動と産業革命を物語る貴重な史料である。



市指定文化財

光明寺町石 こうみょうじちょうせき

区分：有形文化財 種別：歴史資料 数量：6基
所有者：光明寺 (4基) 赤穂市教育委員会 (2基)
指定年月日：平成13 (2001) 年12月19日 指定番号：39

【解説】

黒沢山光明寺は西播磨の古刹で、旧地は同寺の奥の院として黒沢山の山頂近くにある。多くの塔頭を持つ大寺院だったが、天文7(1538)年の尼子晴久の兵乱で堂宇を焼かれてからは衰運をたどり、残っていた1坊が文政2(1819)年に山麓に移って以後は、長く荒廃にまかされていた。しかし平成2(1990)年以來、寺によって大師堂や庫裏が順次建てられ、奥の院として整備が進められた。

光明寺町石は、五輪塔の地輪部(基礎)を長くした長脚五輪卒都婆形式のもので、基礎部に経典名や町数、願主名などが刻まれている。かつて光明寺への参道に置かれていたもので、現在6点が残されており、うち2点は赤穂市立有年考古館敷地内に移設されている。



市指定文化財

前句集額 まえくしゅうがく

区分：有形文化財 種別：歴史資料 数量：1面
所有者：大避神社 (管理者) 西有年自治会
指定年月日：平成14 (2002) 年3月29日 指定番号：40

【解説】

西有年の大避神社は別名を野々宮ともいい、宝暦12(1762)年刊の『播磨鑑』に「赤穂郡内数ヶ所に勧請す、有年の野々宮・岩木の宮等也」とある古社である。

この額は境内南にある須賀神社本殿の床下から発見されたもので、明和5(1768)年の記録が読み取れる。前句は元禄時代(1688~1704)から庶民文芸として流行した雑俳の一種であり、「四季句」として後句が7句出題され、これを受けた前句が25句読まれている。肩書きに在地を示した地名があり、肩書きが記載されていないものは、有年周辺の者と推測される。

当時の文芸隆盛の様子が窺えるもので、市内では最古の例である。



市指定文化財

暦法算額絵馬 れきほうさんがくえま

区分：有形文化財 種別：歴史資料 数量：1面
 所有者：大津八幡神社（管理者）歴史博物館
 指定年月日：平成16（2004）年4月20日 指定番号：43

【解説】
 当絵馬は、浜田文治（出口屋・大津村庄屋）が寛政3（1791）年9月に大津八幡神社に奉納した暦法算額絵馬である。額面はマツ材の一枚板。
 算額絵馬とは、幾何学の問題と回答を記し、問題が解けたことを神仏に感謝し、より一層の精進を誓って奉納された絵馬であり、絵馬は授時暦（中国・元の暦）をもとに寛政4（1792）年の月ごとの定朔（朔日・新月）、定望（15日・満月）を試算したものである。
 江戸時代の和算の水準を示すものとして高い評価のある算額絵馬のうち、暦法を記した絵馬は珍しく、全国4例のうちでも当絵馬は最古のものである。



市指定文化財

井口半蔵・木村孫右衛門連署起請文 いぐちはんぞう・きむらまごえもんれんしよきしょうもん

区分：有形文化財 種別：歴史資料 数量：1点
 所有者：赤穂市教育委員会（管理者）歴史博物館
 指定年月日：平成17（2005）年3月24日 指定番号：47

【解説】
 江戸時代の刃傷事件ののち、旧浅野家中の井口半蔵と木村孫右衛門が連署で同志たることを誓って、大石内蔵助に差し出した起請文である。元禄15（1701）年4月21日付けでしたためられているが、この起請文は、いったん返却され、受け取った者は除外、反発したものを同志としたもので、両人は同年8月に同志から離脱している。
 神文は熊野牛玉宝印紙を用い、血判も見られる。討入りに参加しなかった者の起請文ではあるが、実際に参加した義士の起請文が現存する可能性は低く、赤穂事件にかかわる唯一の現存するもので、貴重な資料である。



市指定文化財

赤穂浅野家藩札 銀拾文目札 あこうあさのけはんさつ ぎんじゅうもんめさつ

区分：有形文化財 種別：歴史資料 数量：1枚
 所有者：個人
 指定年月日：平成28（2016）年8月31日 指定番号：60

【解説】
 浅野長矩時代の延宝8（1680）年1月に発行された藩札。
 札の表には「播州赤穂 延寶八庚申歳 正月吉祥日 銀拾文目」とある。ただし、後年に刷られた札も、当初の図柄・年月を踏襲したと思われる。
 当時の藩札は銀10匁、銀1匁、銀5分、銀3分、銀2分の、合計5種類が発行され、厳しい専一流通が強制されていた。浅野家が元禄14（1701）年に改易した際、速やかに6歩（6割）替えて回収して焼却処分されたため、21年間だけ通用し、かつほとんど現存していないものである。



市指定文化財

赤穂浅野家藩札 銀貳分札 あこうあさのけはんさつ ぎんにぶさつ

区分：有形文化財 種別：歴史資料 数量：1点
 所有者：個人
 指定年月日：平成28（2016）年8月31日 指定番号：61

【解説】
 浅野長矩時代の延宝8（1680）年1月に発行された藩札。
 札の表には「播州赤穂 延寶八庚申歳 正月吉祥日 銀貳分」とある。ただし、後年に刷られた札も、当初の図柄・年月を踏襲したと思われる。
 当時の藩札は銀10匁、銀1匁、銀5分、銀3分、銀2分の、合計5種類が発行され、厳しい専一流通が強制されていた。浅野家が元禄14（1701）年に改易した際、速やかに6歩（6割）替えて回収して焼却処分されたため、21年間だけ通用し、かつほとんど現存していないものである。



市指定文化財

赤穂緞通技法 あこうだんつうぎほう

区分：無形文化財 種別：工芸技術 数量：一
所有者：赤穂緞通織保存会
指定年月日：昭和59（1984）年3月31日 指定番号：6

【解説】

嘉永年間（1848～1855）、中広の児島なかは、佐賀と堺の緞通を調査研究して織機を試作し、緞通生産を開始した。明治20（1887）年頃には、早川宗助が指導を受け、御崎川口町に緞通場を設けた結果、明治30（1897）年代には皇室や枢密院などにも買上げられ、更に諸外国にも輸出されるなど隆盛した。

しかし昭和12（1937）年の綿花輸入制限から緞通生産は中断。昭和26（1951）年に再開するも、織子は2名を数えるのみとなっていた。そこで平成3（1991）年、赤穂市教育委員会が赤穂緞通織方技法講習会を開始し、赤穂緞通織保存会が結成された。現在では修了者たちがそれぞれ独自に赤穂緞通工房をもち、復活させている。



市指定文化財

牟礼八幡神社農耕図絵馬 むれはちまんじんじゃのうこうずえま

区分：有形民俗文化財 種別：信仰に用いられるもの 数量：1面
所有者：牟礼八幡神社
指定年月日：平成7（1995）年5月25日 指定番号：21

【解説】

有年牟礼の八幡神社に奉納されている、縦136.4cm、横187.6cmの木製扁額。杉板を横に並べ画版とし、これを9区画に分けて農作業絵、祭礼絵を描く。奉納は明治10（1877）年代と思われる。

近代の奉納ではあるが、農具と用法の描写がよく、特に地域独特の農具が明確に描かれるなど、江戸末期の農耕の実態をよく理解できる貴重な民俗資料である。



市指定文化財

ひがしうねはちまんじんじゃとうにんぎょうじ（つけたり）ひがしうねちんざはちまんじんじゃさいれいえまいちめん
東有年八幡神社頭人行事（付）東有年鎮座八幡神社祭礼絵馬 1面

区分：無形民俗文化財 種別：風俗慣習 数量：一
所有者：東有年八幡神社頭人祭保存会
指定年月日：平成18（2006）年3月31日 指定番号：49

【解説】

東有年の八幡神社で行われる秋の祭礼は、3人の稚児頭人を3年輪番制でくじ引きして「初頭」、「二番頭」、「三番頭」と呼び、この頭人を中心とした様々な古習を行う。特に神田での田植え行事、オハケと呼ばれるつくりもの、川での祓い清め、オゴケづくり、屋台行事、形骸化してはいるが流鏝馬行事などがあり、市内でも特に頭人に関する行事がよく残されている。

また同神社に奉納されている祭礼絵馬は文政元（1818）年に奉納されたもので、山頂の八幡神社から東有年の街道筋を、神輿がお旅所まで練り歩く様子を描く。



市指定文化財

あこうはちまんぐうしんこうしきのとうにんぎょうれつ（つけたり）さいれいしだいとうもんじよななじゅうごてん
赤穂八幡宮神幸式の頭人行列（付）祭礼次第等文書75点

区分：無形民俗文化財 種別：風俗慣習 数量：一
所有者：尾崎地区自治会連合会
指定年月日：平成23（2011）年10月5日 指定番号：57

【解説】

赤穂市尾崎にある赤穂八幡宮の秋の祭礼に伴う頭人行列であり、寛文元（1648）年の文献にはすでに「頭人」の記録が残されている。また明治34（1901）年の『壹番頭諸入用控』などから、少なくとも近代以降、現在に至るまでほぼ同様の行列形態が保たれていることがわかる。

赤穂八幡宮神幸式の頭人行列は、市内の神社祭礼で行われる頭人行列と比較しても、神幸式における役割と規模は大きく、最も古い形態が唯一保持されているものであり、当地域の祭礼を特色づける貴重な無形民俗文化財である。



市指定文化財

塩屋荒神社屋台行事 しおやこうじんじゃやたいぎょうじ

区分：無形民俗文化財 種別：風俗習慣 数量：一
所有者：塩屋屋台保存会及び塩屋西屋台保存会
指定年月日：平成28（2016）年8月31日 指定番号：62

【解説】

塩屋荒神社は皇極天皇のときに秦河勝の神像を祀ったことに始まると伝わり、延宝3(1675)年の一字再興記録が文献上での初見である。

塩屋荒神社で行われる屋台行事は、文久2(1862)年にはすでに行われていたもので、現在は10月の秋祭りにおいて、東西2地区の大屋台のほか多数の子供屋台等が使用され、途切れることなく唄われる伊勢音頭を背景として、練りや差し上げが行われる優美な行事である。

その歴史は少なくとも明治時代に遡り、市内における屋台行事として貴重であり、文化財の価値がある屋台等を維持している点で、無形民俗文化財に指定された。



市指定文化財

鳥撫荒神社獅子舞 となでこうじんじゃししまい

区分：無形民俗文化財 種別：民俗芸能 数量：一
所有者：天和獅子舞保存会
指定年月日：平成8（1996）年3月29日 指定番号：25

【解説】

鳥撫荒神社は、池田輝政の勧請した銭島八幡神社が尾崎に移された後、その社を荒神山に移し祀ったものという。

獅子舞は伊勢系の神楽獅子であり、豊作を祝い、神に感謝する舞として明治後半頃に千種川筋の高野・木津・高雄等の獅子舞を習得して始められたと伝わる。舞は豊富で16種類行われている。

市内にある芸獅子のなかで、その芸の豊富さは屈指である。



市指定文化財

坂越盆踊り さこしぼんおどり

区分：無形民俗文化財 種別：民俗芸能 数量：一
所有者：坂越盆踊り保存会
指定年月日：平成19（2007）年3月30日 指定番号：51

【解説】

坂越は湾状地形をしていて平地が少なく、盆踊りを行うための広場がなかったため、道上で2列に並んで盆踊りを行う独特の風習があった。享和3(1803)年の『御役用諸事控』には踊りは2カ所でなされ、取締りを受けているという記録がある。その後も継承されてきたが、大戦中は中断、戦後は青年団などで復活した。

昭和52(1977)年には「坂越盆踊り保存会」が結成され、現在に至っている。



市指定文化財

赤穂浜鋤き唄 あこうはますきうた

区分：無形民俗文化財 種別：民俗芸能 数量：一
所有者：赤穂浜鋤き唄保存会
指定年月日：平成19（2007）年11月22日 指定番号：52

【解説】

浜鋤きとは塩田作業の一つで、塩田面に海水の上昇を促すため、牛犁・鉄万鋤等の用具を用いて、固くなった地盤を掘り返す重労働のことで、その際に浜男たちによって唄われていたのが「浜鋤き唄」である。浜鋤き唄は遅くとも江戸時代の中頃(18世紀)には、赤穂塩田で働く人々(浜子・浜男)によって唄い続けられてきたと考えられている。

現在は保存会が結成され、採譜された浜鋤き唄を民謡風にアレンジして新唄とし、尺八や三味線等も加わって当時のものとは異なっているが、元来の浜鋤き歌もあわせて伝承されている。



市指定文化財

おさき・おおつかこふん（つげたり）しゅつどいぶつじゅうにてんおよび あざおおつかこふんちようさしよるいつり
尾崎・大塚古墳（付）出土遺物12点及び『字大塚古墳調査書類綴り』

区分：史跡 種別：遺物包含地等の遺跡 数量：1基
所有者：赤穂市
指定年月日：平成8（1996）年3月29日 指定番号：26

【解説】

赤穂市尾崎の丘陵上に単独で存在する、古墳時代後期の横穴式石室墳である。墳丘は崩壊しているが、現在の墳丘径は約19mを測る。内部主体は両袖式の横穴式石室で、玄室は長さ4.1m、幅2.1m、高さ2.5m、現存する羨道は長さ4.5m、幅1.3m、高さ1.25mを測る。出土遺物から6世紀後半と推定される。

古墳は瀬戸内海を臨む位置にあり、周囲は平地の見られない場所であることから、漁業を生業とした被葬者像が想定されている。

明治41（1908）年の発掘調査記録『字大塚古墳調査書類綴り』が残されており、出土遺物12点と共に指定されている。



市指定文化財

伝大石良雄仮寓地跡 でんおおいしよしたかかぐうちあと

区分：史跡 種別：その他 数量：1,643.46㎡
所有者：赤穂市
指定年月日：平成9（1997）年3月31日 指定番号：29

【解説】

赤穂市尾崎の赤穂八幡宮の東南、小字観音堂の東に位置する。元禄頃にはここに、大石内蔵助良雄の家扶妹尾孫左衛門の兄元屋八十右衛門の宅があり、その山側に離れ座敷があったようである。通称を「おせど」という。

元禄14（1701）年3月14日の刃傷事件の後、家中の屋敷明渡しが4月15日に行われ、大石は5月7日から6月25日まで、おせどに寓居していたようである。わずか50日足らずであるが、赤穂事件の主役に関係する土地として史跡指定にふさわしい。現在は社や池泉が残され、桜の名所としても知られている。



市指定文化財

三味線製作技法 しゃみせんせいさくぎほう

区分：選定保存技術 種別：工芸技術 数量：1人
保持者：目坂進
認定年月日：平成7（1995）年5月25日 認定番号：5

【解説】

三味線（三弦）は、日本の代表的な民俗楽器であり、浄瑠璃・常磐津・清元から、長唄・小唄に至るまで、邦楽・邦舞・民俗芸能の楽器として、古くから、且つ広く庶民の生活とのつながりを持ち続けて来た。しかも、現在、緻密で質の高い三味線製作が要求されている。

工芸技術は地味であるだけに、人々の耳目に触れる機会が乏しい。それだけに、赤穂に伝承されている三味線の全工程を一貫製作する三味線製作を赤穂市選定保存技術に選定し、目坂進を保持者として認定している。



市指定文化財

宮大工の技術 みやだいくのぎじゅつ

区分：選定保存技術 種別：工芸技術 数量：1人
保持者：和田貞一
認定年月日：平成12（2000）年3月31日 認定番号：7

【解説】

宮大工とは、神社仏閣の建築や補修に専門的に関わる大工であり、日本列島の自然環境に適した木造建築への深い造詣が必要な職業である。その特徴として、木材の精密な加工を行うことによって釘を使わない「木組み」による建築を行う点があり、市内では見られず、全国的にもその技術の継承は困難となってきた。

和田貞一は、宮大工の伝統技術を体系的に受け継いでおり、また槍鉋・手斧などの工具やさし金の用法にも熟練していることから、保持者として認定している。



認定の解除

建造物彩色 けんぞうぶつさいしき

区分：国文化財保存技術 種別：—
 数量：1人 保持者 山崎昭二郎
 認定年月日：昭和54年4月21日 解除年月日：平成5年5月28日

【解説】

山崎昭二郎は、東京美術学校図案課を卒業後、建造物彩色の文様研究に携わり、国宝平等院鳳凰堂、薬師寺東塔、唐招提寺金堂をはじめ、多数の国宝・重要文化財の建造物彩色模写を製

作した。模写には豊富で専門的な装飾技術ならびに知識が必要で、昭和54(1979)年4月21日に全国初の建造物彩色選定保存技術保持者に認定された。平成5(1993)年5月28日死去。

認定の解除

赤穂緞通の織方技法 あこうだんつうのおりかたぎほう

区分：市選定保存技術 種別：工芸技術
 数量：1人 保持者 山本マサノ
 認定年月日：昭和59年3月31日 解除年月日：平成14年9月15日 認定番号：2

【解説】

赤穂緞通は、鍋島・堺と並び日本三緞通の一つで、明治・大正期に栄えた産業である。山本マサノは、大正4(1915)年1月22日に生まれ、12歳から緞通をはじめて15歳に一人前となり、昭

和12(1937)年まで織ったが戦中は中断し、昭和26(1951)年から再び西田緞通にて勤務。従事年数は通算で40年を超えていたが、平成14(2002)年9月15日に死去。

認定の解除

播州箕・竹籠類 編方技法 ばんしゅうみ・たけかごるい あみかたぎほう

区分：市選定保存技術 種別：工芸技術
 数量：1人 保持者 谷本拙三
 認定年月日：平成7年5月25日 解除年月日：平成15年7月31日 認定番号：6

【解説】

大正7(1918)年7月11日に生まれた谷本拙三は、幼少から竹細工に興味をもち、18歳頃には一人前となった。竹製品の製作には、素材の選別、製作技法に関する高度な知識と専門性が必

要で、不断の研究を行って特に播州箕及び竹籠類の製作については西播磨随一であった。平成15(2003)年7月31日に死去。

認定の解除

三味線製作技法 しゃみせんせいさくぎほう

区分：市選定保存技術 種別：工芸技術
 数量：1人 保持者 目坂五郎
 認定年月日：平成7年5月25日 解除年月日：平成19年2月2日 認定番号：5

【解説】

目坂五郎は明治42(1909)年4月17日に生まれ、幼少より三味線に興味を持ち、学校卒業後は三味線屋に奉公した。27歳で赤穂に帰郷、胴皮張りの商売を始め、確かな腕前が信用を生

み、戦時中を除き繁盛した。三味線製作の全工程を一貫製作でできる職人は珍しく、また次男の進に技術を伝承し、技法の継承が行われた。平成19(2007)年2月2日死去。

認定の解除

和船建造の技術 わせんけんぞうのぎじゅつ

区分：市選定保存技術 種別：工芸技術
 数量：1人 保持者 湊隆司
 認定年月日：昭和59年3月31日 解除年月日：平成26年5月21日 認定番号：3

【解説】

湊隆司は昭和3(1928)年1月14日に生まれ、昭和20(1945)年播磨造船徒弟学校を卒業後、造成所勤務で船匠の腕を磨いた。昭和31(1956)年に独立した後は和船、機帆船の新造修理

に従事した。特に坂越の船祭に使用する祭礼用和船の修理を一手に引き受けた、赤穂市唯一の船大工であった。平成26(2014)年5月21日死去。

認定の解除

赤穂緞通の織方技法 あこうだんつうのおりかたぎほう

区分：市選定保存技術 種別：工芸技術
 数量：1人 保持者 阪口キリエ
 認定年月日：昭和59年3月31日 解除年月日：平成29年9月16日 認定番号：1

【解説】

阪口キリエは大正10(1921)年1月22日に生まれ、11歳から緞通織を開始、15歳で一人前となり、昭和26(1951)年から西田緞通場で39年間、織り子を務めた。平成3(1991)年からは赤

穂緞通唯一の織り子として、赤穂市教育委員会主催の赤穂緞通織方技法講習会の講師となり、後継者育成に努めた。平成29年(2017)9月16日死去。

3. 刊行物一覧

(1) 市史編さん担当刊行物一覧

No.	名称	章	節	表題	著者・出版社	出版年			
1	『赤穂市史』 第1巻 本文編 -地質・地理・考古・古代・中世	1	節	赤穂の自然環境	田中真吾	S56.9.1 (1981)			
			1	赤穂の位置	田中真吾				
			2	赤穂付近の地質	田中真吾				
			3	赤穂の地形	田中真吾				
			4	赤穂の地形・地質とわれわれの生活	田中真吾				
		2	節	考古学からみた赤穂	松岡秀夫				
			1	先土器時代の赤穂	松岡秀夫				
			2	縄文時代の赤穂	松岡秀夫				
			3	弥生時代の赤穂	松岡秀夫				
			4	古墳時代の赤穂	松岡秀夫				
		3	節	古代の赤穂	福島好和				
			1	律令制以前の西播地方	福島好和				
			2	律令制下の赤穂	福島好和				
			3	荘園の展開	福島好和				
			4	宗教と文化	福島好和				
		4	節	中世の赤穂	石田善人				
			1	荘園と国衙領	石田善人				
			2	悪党の時代	石田善人				
			3	南北朝内乱期の赤穂	石田善人				
			4	赤松・山名両氏の角逐	石田善人				
			5	戦国期の赤穂	石田善人				
			6	中世赤穂の文化	石田善人				
		7	近世的塩業の萌芽	廣山堯道					
		2	『赤穂市史』 第2巻 本文編-近世	1	節		幕藩制の成立と赤穂	八木哲浩 廣山堯道	S58.3.31 (1983)
					1		織豊時代の赤穂	八木哲浩	
					2		池田氏時代の支配と赤穂	八木哲浩	
					3		池田氏の城と城下町	廣山堯道	
					4		赤穂上水道の敷設	廣山堯道	
2	節			浅野藩政と元禄事件	八木哲浩 廣山堯道				
	1			浅野赤穂藩	八木哲浩				
	2			赤穂城の築城と城下町	廣山堯道				
	3			浅野氏時代の領村	八木哲浩				
	4			近世塩業の成立	廣山堯道				
3	節			森氏の定着と藩政の推移	八木哲浩 廣山堯道				
	1			永井・森氏の入封と市域支配の大名たち	八木哲浩				
	2			森藩政と藩財政	八木哲浩				
	3			農村と村々	八木哲浩				
	4			宿場と高瀬舟と港町	廣山堯道				
	5			製塩業の推移	廣山堯道				
4	節			幕藩制の解体と赤穂	廣山堯道				
	1			藩財政の窮乏	廣山堯道				
	2			赤穂の生活暦	廣山堯道				
	3			幕末の塩業	廣山堯道				
	4			赤穂藩の解体	八木哲浩				

No.	名 称	章 節	表 題	著者・出版社	出版年
3	『赤穂市史』 第3巻 本文編-近・現代	1	節 明治維新と赤穂	宮川秀一	S60.12.20 (1985)
			1 近代国家への諸改革	宮川秀一	
			2 行財政と政治	奥村 弘	
			3 経済不況下の農漁村	李 東彦	
		2	4 明治前期の塩業	廣山堯道	
			節 明治の赤穂	鈴木正幸	
			1 新しい町村の成立	鈴木正幸	
			2 鉄道の開通と経済の展開	西畑俊昭	
		3	3 日露戦争・戦後の赤穂	鈴木正幸	
			4 明治後期の塩業	廣山堯道	
			節 大正新時代の赤穂	鈴木正幸	
			1 資本主義の展開	鈴木正幸	
		4	2 大正期の地域と政治	鈴木正幸	
			3 社会問題と時代思潮	鈴木正幸	
			4 大正期の塩業	廣山堯道	
			節 恐慌から戦争へ	鈴木正幸	
		5	1 農村の窮乏	合田公計	
			2 日中戦争から太平洋戦争へ	鈴木正幸	
			3 昭和前期の塩業	廣山堯道	
			節 赤穂市の成立と発展	鈴木正幸	
1 戦後の民主化	鈴木正幸				
2 赤穂市の成立	鈴木正幸				
4	『赤穂市史』 第4巻 史料編-地質・地理・考古・古代・中世	3 製塩業における産業革命	廣山堯道		
		4 現在の赤穂	秋山貞美		
		5 文化活動のあゆみ	松岡秀夫		
		I 赤穂市の自然に関する資料	田中真吾		
		II 赤穂市の考古遺跡と遺物	松岡秀夫		
		一 律令制以前	福島好和		
		二 律令制以後	福島好和		
		三 荘園の成立	福島好和		
		四 古代の文化	福島好和		
		五 荘園の展開	石田善人		
六 中世の港町	石田善人				
七 中世の文化	石田善人				
八 侍分限帳	石田善人				
九 中世の山城	松岡秀夫				
十 古代・中世の塩業	廣山堯道				
5	『赤穂市史』 第5巻 史料編-近世	一 赤穂を支配した領主	八木哲浩		
		二 赤穂の城と城下町	廣山堯道		
		三 元禄事件	八木哲浩		
		四 森赤穂藩政	八木哲浩		
		五 赤穂の塩業と廻船	廣山堯道		
		六 村明細帳と村絵図	八木哲浩		
		七 赤穂の農漁村	八木哲浩		
		八 宿場と港町	廣山堯道		
		九 赤穂の地誌	八木哲浩		
		十 幕末維新期の赤穂藩	八木哲浩		
6	『赤穂市史』 第6巻 史料編-近・現代	一 戦前の行財政	鈴木正幸		
		二 明治期の教育	宮川秀一		
		三 赤穂の塩業	廣山堯道		
		四 赤穂の農漁業	李 東彦		
		五 商工業・金融・交通	西畑俊昭		
		六 社会生活と文化	鈴木正幸		
		七 戦後の赤穂	鈴木正幸		

No.	名称	章	節	表題	著者・出版社	出版年		
7	『赤穂市史』 第7巻 別編-年表・索引・補遺編、付図箱			年表	市史編さん 専門委員	S61.10.1 (1986)		
				索引	市史編さん室			
				総目次	市史編さん室			
				補遺	田中真吾			
				市史編さんを終えて(座談会)	市史編さん室			
				資料提供者一覧	市史編さん室			
8	『忠臣蔵』第1巻 史実・本文編			殿中大廊下の刃傷	八木哲浩	H1.3.31 (1989)		
				1	1 事件の発生		八木哲浩	
					2 片落ちの裁定		八木哲浩	
					3 風さそふ花よりもなほ		八木哲浩	
				2			赤穂城明渡し	八木哲浩
					1		開城までの一ヵ月	八木哲浩
					2		開城とその後	八木哲浩
				3			仇討ちへの軌跡	八木哲浩
					1		大学の御安否承り届けざるうちは	八木哲浩
					2		「人前」回復への道	八木哲浩
					3		会日を待つ日々	八木哲浩
				4			吉良邸討入りの日	八木哲浩
					1		四十七士討ち入る	八木哲浩
					2		討入り終わって	八木哲浩
				5			四十六士お預け、処断	八木哲浩
					1		四十六士を四藩にお預け	八木哲浩
					2		武士道もて自裁	八木哲浩
					3		義士余話	八木哲浩
				6			四十六士をめぐる論議	八木哲浩
9	『忠臣蔵』第2巻 文芸・本文編			序	忠臣蔵文化について	西山松之助		
				1		『仮名手本忠臣蔵』総説	服部幸雄	
					1	はじめにー「忠臣蔵」という言葉	服部幸雄	
					2	全十一段の梗概	服部幸雄	
					3	『仮名手本忠臣蔵』の成立	服部幸雄	
					4	初演当時の人形浄瑠璃の興行と 合作の作者たち	服部幸雄	
					5	『仮名手本忠臣蔵』の論	服部幸雄	
				6	むすびー「忠臣蔵」の魅力	服部幸雄		
				2		『仮名手本忠臣蔵』演出の研究	服部幸雄	
					1	大序	服部幸雄	
					2	二段目	倉重高子	
					3	三段目	渡邊哲之	
					4	四段目	北潟喜久	
					5	浄瑠璃 道行旅路の花笠	大木晃弘	
					6	五段目	石橋健一郎	
					7	六段目	石橋健一郎	
					8	七段目	金森和子	
					9	八段目	阿部さとみ	
					10	九段目	児玉竜一	
					11	十段目	大木晃弘	
12	十一段目	大木晃弘						
3		忠臣蔵文化の諸相						
	1	『忠臣蔵』の浮世絵	浅野秀剛					
	2	忠臣蔵興行史	早川由美					

No.	名 称	章 節	表 題	著者・出版社	出版年
10	『忠臣蔵』第3巻 史実・史料編	1	殿中大廊下の刃傷	八木哲浩	S62.7.31 (1987)
		2	城下静謐のうちに	八木哲浩	
		3	赤穂城明渡し	八木哲浩	
		4	赤穂浪士の筆記	八木哲浩	
		5	赤穂浪士の書状	八木哲浩	
		6	吉良邸討入り	八木哲浩	
		7	四藩御預り記録	八木哲浩	
		8	切腹・遠島の処断	八木哲浩	
		9	四十六士論	八木哲浩	
11	『忠臣蔵』第4巻 文芸・史料編	1	浄瑠璃	服部幸雄 及川章子	H2.3.31 (1990)
		2	歌舞伎	佐藤ひとみ 石橋健一郎	
		3	邦楽・歌謡	鴻巣 香	
		4	落語・小咄	石橋健一郎	
		5	講談・浪曲	金森和子	
		6	黄表紙・滑稽本	及川章子 気多恵子	
		7	謡曲	金森和子	
12	『忠臣蔵』第5巻 文芸・史料編	1	歌舞伎等上演年表	大木晃弘	H5.3.31
		2	浄瑠璃上演年表	石橋健一郎	
		3	映画作品年表	縄田一男	
		4	テレビ作品年表	倉重高子	
13	『忠臣蔵』第6巻 文芸・史料編	1	川柳・狂歌	岩田秀行 服部幸雄	H9.3.31 (1997)
		2	抜文句	今田洋三	
		3	芝居本	金森和子 気多恵子	
		4	小説・戯曲	縄田一男	
14	『忠臣蔵』第7巻 文芸・史料編	1	浮世絵等図版 芝居絵	浅野秀剛	H26.1.31 (2014)
		2	浮世絵等図版 見立絵	浅野秀剛	
		3	浮世絵等目録	浅野秀剛	
			1 版画等 芝居絵	浅野秀剛	
			2 版画等 見立絵	浅野秀剛	
		3	絵馬・その他	市史編さん室 アン・ヘリング	
15	赤穂の地名		市史編さん室	S60.3.1 (1985).	
16	聞書 松山藩赤穂御預人始末		市史編さん室	H5.2.15 (1993)	
17	『赤穂義士論寺坂 吉右衛門をめぐる』	四十七義士論		飯尾 精	H9.3.31 (1997)
		四十六士論		八木哲浩	
18	市史史料集 第1集 「赤穂藩森家諸役姓名録」		市史編さん担当	H27.2.28 (2015)	
19	市史史料集 第2集 「赤穂藩森家分限帳集」		市史編さん担当	H28.3.15 (2016)	
20	市史史料集 第3集 「真光寺旧蔵・柴原家文書年中用事控(1)」		市史編さん担当	H29.3.14 (2017)	
21	市史史料集 第4集 「真光寺旧蔵・柴原家文書年中用事控(2)」		市史編さん担当	H29.11.10 (2017)	
22	赤穂史百話		市史編さん担当	H30.3.28 (2018)	

(2) 公益財団法人赤穂市文化とみどり財団刊行物一覧

No.	名 称	巻 次	著 者	出 版 者	発行年
1	塩のはなし	赤穂塩業資料館報 第7号	赤穂塩業資料館 編	赤穂塩業資 料館	S57.1.20
2	赤穂で見られる雲	赤穂市立海洋科学館 研究資料1	竹中虎彦 編	赤穂市立海 洋科学館	S63.3
3	赤穂義士史跡めぐり		赤穂市教育研究所 義士と教育部会 編	赤穂市文化 振興財団	S63.6
4	貝のはなし	赤穂市立海洋科学館 研究資料2	杉谷安彦 編	赤穂市立海 洋科学館	H1.3
5	赤穂の製塩用具(図録)		廣山堯道 編著	赤穂市文化 振興財団	H1.4.20
6	塩問屋のくらし 開館記念特別展	平成元年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴 史博物館	H1.4.26
7	日本のチョウ	赤穂市立海洋科学館 研究資料3	木村三郎 編	赤穂市立海 洋科学館	H1.7.21
8	二人の法橋 赤穂が生んだ絵師・ 周得と文信	平成元年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴 史博物館	H1.10.21
9	元禄赤穂事件の舞台		司波 幸作	赤穂市文化 振興財団	H2.12.10
10	薬草のはなし	赤穂市立海洋科学館 研究資料4	家永善文 監修	赤穂市立海 洋科学館	H2.12.25
11	赤穂のやきもの	平成3年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴 史博物館	H3.4.27
12	西はりまのトンボ	赤穂市立海洋科学館 研究資料5	相坂耕作 編	赤穂市立海 洋科学館	H3.7.20
13	赤穂市40年のあゆみ 赤穂市制40周年記念	平成3年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴 史博物館	H3.11.16
14	清和源氏 赤穂森家		三谷 百々	赤穂市文化 振興財団	H4.3.30
15	銅鐸	平成4年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴 史博物館	H4.8.12
16	生きている化石 カプトガニ	赤穂市立海洋科学館 研究資料6	惣路紀通 編	赤穂市立海 洋科学館	H5.1.26
17	赤穂浪人明屋敷改帳	博物館資料集 第1号	赤穂市立歴史博物館 編 八木哲浩 監修	赤穂市立歴 史博物館	H5.3.31
18	赤穂義士物語		赤穂市教育研究所 義士と教育部会 編	赤穂市教育 委員会	H5.3.31
19	千種川の植物と魚	赤穂市立海洋科学館 研究資料7	高見甲久 編 室井俊之 編	赤穂市立海 洋科学館	H5.7.21
20	近世赤穂の教育 藩校・私塾・寺子屋	平成5年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴 史博物館	H5.11.20
21	早水家文書(1)	博物館資料集 第2号	赤穂市立歴史博物館 編 八木哲浩 監修	赤穂市立歴 史博物館	H6.3.31
22	開館5周年記念特別展 坂越廻船と奥藤家	平成6年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴 史博物館	H6.4.23
23	知られざる天折の画家 平井正年	企画展資料集	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴 史博物館	H6.11.19
24	文様彩色画師 山崎昭二郎の世界	平成7年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴 史博物館	H7.4.22
25	海から上陸した生き物たち	赤穂市立海洋科学館 研究資料9	珠羅紀雄 著	赤穂市立海 洋科学館	H7.6.25
26	国指定名勝 田淵氏庭園		赤穂市文化振興財団編	赤穂市文化 振興財団	H7.11
27	第2回収蔵資料展	企画展資料集	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴 史博物館	H7.12.9
28	赤穂の文化 研究紀要	創刊号	赤穂市文化振興財団	赤穂市文化 振興財団	H8.3.1
29	浮世絵の華麗な世界 播磨文化の会コレクション展	企画展資料集	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴 史博物館	H8.4.27
30	描かれた塩づくり	平成8年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴 史博物館	H8.11.9
31	海浜公園の植物ハンドブック 其の1	赤穂市立海洋科学研 究資料10	高見甲久 編 室井俊之 編	赤穂市立海 洋科学館	H9.3.25
32	江戸時代の紙幣 館蔵「平尾文庫」コレクションを 中心に	企画展資料集	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴 史博物館	H9.4.26

No.	名 称	卷 次	著 者	出 版 者	発行年
33	城下町と水道	平成9年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H9.11.1
34	赤穂の文化 研究紀要	第2号	赤穂市文化振興財団	赤穂市文化振興財団	H9.12.30
35	赤穂市立田淵記念館図録		赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H10.3
36	海浜公園の植物ハンドブック 其の2	赤穂市立海洋科学館 研究資料 11	高見甲久 編 室井俊之 編	赤穂市立海洋科学館	H10.3.25
37	民具からの問いかけ ちょっと昔のくらしを演出した道具たち	企画展資料集	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H10.4.25
38	鳴く虫と民俗文化	赤穂市立海洋科学館 研究資料12	相坂耕作 編	赤穂市立海洋科学館	H10.8.1
39	錦絵にみる「忠臣蔵」の世界 『仮名手本忠臣蔵』初演 二五〇年記念	平成10年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H10.11.7
40	赤穂市立歴史博物館 常設展示案内		赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H11.3.31
41	赤穂の文化 研究紀要	第3号	赤穂市文化振興財団	赤穂市文化振興財団	H11.11.1
42	播州赤穂之城主 浅野内匠頭牢人御預記	博物館資料集 第3号	赤穂市立歴史博物館 編 八木哲浩 監修	赤穂市立歴史博物館	H11.11.30
43	赤穂城絵図展 絵図にみる城と城下町の うつりかわり	平成11年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H12.2.11
44	坂越の船祭り	企画展資料集	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H12.4.22
45	おもちゃ・de・忠臣蔵 忠臣蔵をあそぶ	平成12年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H12.11.11
46	赤穂「義士」の手紙	企画展資料集	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H13.4.28
47	検証・赤穂事件① 殿中刃傷から赤穂城明け渡し まで	平成13年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H13.11.3
48	赤穂の文化 研究紀要	第4号	赤穂市文化振興財団	赤穂市文化振興財団	H14.3
49	忠臣蔵の絵巻物	企画展資料集	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H14.4.27
50	検証・赤穂事件② 討入りへ、そして本懐、事件後	平成14年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H14.11.2
51	やさしい赤穂の歴史 上・下		赤穂市文化振興財団	赤穂市文化振興財団	H15.3
52	第3回収蔵資料展 塩・城と城 下町・赤穂事件と忠臣蔵・赤穂 の歴史と文化	企画展資料集	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H15.4.26
53	赤穂緞通	企画展図録	赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H15.10.18
54	近世・近代赤穂の美 絵画・書・ やきもの	平成15年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H15.11.1
55	赤穂義士絵物語 大石 内蔵助		赤穂市教育研究所 編	赤穂市文化振興財団	H15.12.1
56	赤穂の文化 研究紀要	第5号	赤穂市文化振興財団	赤穂市文化振興財団	H16.3
57	忠臣蔵の浮世絵	平成16年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H16.4.24
58	大嶋黄谷 没後100年記念		赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H16.10.16
59	近世赤穂の知のリーダー 赤松滄洲	企画展資料集	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H17.4.23
60	赤穂緞通 2	企画展図録	赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H17.10.8
61	錦絵に見る『東海道四谷怪談』 の世界	平成17年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H17.11.3
62	集まれ！忠臣蔵の人形たち のじごく兵庫国体スポーツ芸術	平成18年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H18.9.16

No.	名 称	巻 次	著 者	出 版 者	発行年
63	赤穂ゆかりの画家 鈴木百年・松年 赤穂市文化振興財団 設立二十周年記念	平成18年度 特別展	赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H18.11.2
64	中村義夫展 没後50年記念	平成19年度 特別展	赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H19.10.3
65	南国土佐の忠臣蔵 絵金が描いた芝居絵屏風	平成19年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H19.11.3
66	まいど！ご最真に 引き札に見る忠臣蔵の世界	平成20年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H20.11.1
67	江戸時代の源氏物語と蹴鞠 近世に引き継がれた王朝文化	平成20年度 特別展	赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H20.11.19
68	朝廷に認められた赤穂の絵師 法橋長安周得	平成21年度 特別展	赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H21.10.7
69	赤穂を治めた藩主 森家	平成21年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H21.11.21
70	仮名手本忠臣蔵の世界	平成22年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H22.11.20
71	大石内蔵助の美	平成23年度 特別展	赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H23.10.26
72	赤穂の指定文化財 市政施行60周年記念	平成23年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H23.11.19
73	赤穂の文化 研究紀要	第6号	赤穂市文化とみどり財団	赤穂市文化とみどり財団	H24.2.29
74	法橋文信 朝廷に認められた赤穂の絵師・ 北條暉水	平成24年度 特別展	赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H24.10.17
75	描かれた赤穂義士	平成24年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H24.11.23
76	豪商の美	平成25年度 特別展	赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H25.10.16
77	忠臣蔵の本尽くし	平成25年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H25.11.23
78	赤穂の文化 研究紀要	第7号	赤穂市文化とみどり財団	赤穂市文化とみどり財団	H26.3.31
79	明治・大正ロマンの赤穂の美術 100年前のアート in AKO	平成26年度 特別展	赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H26.11.13
80	歌川国貞の忠臣蔵浮世絵	平成26年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H26.12.6
81	京都画壇・鈴木派の隆盛	平成27年度 特別展	赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H27.11.12
82	源氏流いけばな	平成27年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H27.11.21
83	赤穂の文化 研究紀要	第8号	赤穂市文化とみどり財団	赤穂市文化とみどり財団	H28.2.25
84	山鹿素行	平成28年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H28.10.22
85	激動の時代 幕末志士たちの 美	平成28年度 特別展	赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H28.11.17
86	藩儒村上氏 -文久事件・高野 の仇討-	平成29年度 特別展	赤穂市立歴史博物館 編	赤穂市立歴史博物館	H29.11.18
87	長安周得Ⅱ -朝廷に認められ た赤穂の絵師-	平成29年度 特別展	赤穂市立美術工芸館 編	赤穂市立美術工芸館	H29.9.28
88	赤穂の文化 研究紀要	第9号	赤穂市文化とみどり財団	赤穂市文化とみどり財団	H29.12.11

(3) 『赤穂の民俗』論文一覧

『赤穂の民俗』その1 坂越編(1)

昭和59(1984)年3月31日刊行

著者名	論文名
西畑俊昭	坂越の歴史
上杉元秀	まちの構造と自治
折方啓三	人生儀礼
粟井ミドリ	年中行事
谷中 進	大避神社の例祭
寺田祐子	(付)坂越祭りの味「くされずし」
久保良道・西畑俊昭	小島の漁法
西畑俊昭	船匠の修業
廣山堯道	船匠の技法
赤松秀幸	(付録)船壇尻・御船歌

『赤穂の民俗』その2 坂越編(2)

昭和60(1985)年3月31日刊行

著者名	論文名
唐崎安也・粟井ミドリ	坂越の生活用水
粟井ミドリ・寺田祐子	坂越の民家
西畑俊昭・上杉元秀	船乗りの生活
大西孜	廻船と海難
奥藤研二・尾上渡	坂越の地名の由来
佐方渚果	坂越の言葉
三木竹夫	坂越方言の用法
粟井ミドリ・折方啓三	坂越の俗信と禁忌

『赤穂の民俗』その3 有年編(1)

昭和60(1985)年3月31日刊行

著者名	論文名
松岡秀夫	有年の歴史
松岡秀夫	有年の地名
宮下斉・粟井ミドリ	有年の年中行事
寺田祐子・松岡秀夫	農家の日常生活
久保良道	有年の農業用水
廣山堯道	檜原石の切り出し
廣山堯道	横山の銅山
井上益雄	東有年八幡神社の頭人行事
鈴木良正・宮下斉	有年の俗信と民間療法
宮下斉	有年の俚諺
松岡秀夫	明治末期頃の檜原新田の民俗

『赤穂の民俗』その4 有年編(2)

昭和61(1986)年3月31日刊行

著者名	論文名
西畑俊昭・廣山堯道	宿場の変遷
井上益雄	有年の養蚕と煙草耕作
浅田尚宏・宮崎素一	有年の川漁
久保良道	「与井の箕」谷本拙三氏からの聞き書き
久保良道・沼田寛	牛の放牧と牛市
山本仁	味噌作り
久保良道	野山のおきて
上杉元秀	有年の青年団
折方啓三・宮下斉	有年の人生儀礼
鈴木良正・宮下斉	有年の石仏
宮下斉	有年の方言

『赤穂の民俗』その5 御崎

昭和61(1986)年3月31日刊行

著者名	論文名
西畑俊昭・廣山堯道	村の文明開化
廣山堯道	入浜塩田と塩釜
木本新二	体験による採鹹の技法
西畑俊昭	上荷舟と上荷さし
廣山堯道	赤穂段通の技法
折方啓三	漁師の一生
岡本欣子・寺田祐子	村の衣・食・住
山脇文治郎・粟井ミドリ	御崎の年中行事
粟井ミドリ	御崎の俗信と禁忌
粟井ミドリ	御崎に伝わるコトワザ(諺)
新田純士・大谷順一・鈴木良正	井戸とお大師さん
折方啓三・寺田祐子	浜男・釜焚き・浜子の生活
寺田祐子	村の女の子
寺田祐子	貧しかった頃の思い出
澗口美穂子・粟井ミドリ	製塩語彙
関秀晤・廣山堯道	新浜村の屋号

『赤穂の民俗』その6 塩屋

昭和62(1987)年3月31日刊行

著者名	論文名
宮崎素一・廣山堯道	塩屋地域の歴史
寺田祐子	塩屋の衣・食・住
粟井ミドリ	塩屋の年中行事
折方啓三・寺田祐子	生活の中のあれこれ
寺田祐子	女中奉公と嫁の話
寺田祐子	子供の頃の思い出
佐野恵美子・岡本欣子	塩屋の民家
河部元一	塩屋の柔術
河部元一	塩屋の神社
河部昌弘・小野真一	塩屋の絵馬
西中正次郎・三谷百々	塩屋の石仏と地藏
久保良道	石ヶ崎の信仰
長棟三枝・粟井ミドリ	塩屋の俚諺と俗信
大沢睦子	塩屋の方言
廣山堯道	製塩用語
岩崎充孝	吸織機の製造
山本仁・浅田尚宏	桶屋の仕事と道具
久保良道	戸島用水と底堰(掘り割り用水)
石原清光	木生谷の社会組織
西畑俊昭	塩屋向の町並み
河手龍海	特別寄稿・赤穂藩と柴原氏
村上隆進	特別寄稿・大雨の録事
長棟三枝	特別寄稿・赤穂塩屋堅鋳音頭

『赤穂の民俗』その7 加里屋・上仮屋編

昭和63(1988)年3月31日刊行

著者名	論文名
中尾徹意・廣山堯道	加里屋と上仮屋の歴史
三谷百々	家中の遺風
河部元一	(付)家中教育の伝統
井藤素一	大正時代の赤穂町
粟井ミドリ	加里屋・上仮屋の年中行事
浅田尚宏	交通の思いで話
井上益雄・沼田寛・平田一二・宮下斉	赤穂の町と「奥」からの道
久保良道	人々のくらしと赤穂鉄道
西畑俊昭	新町の町並みとその気質
寺田祐子	(付)稲荷の「手打ち夜鳴きウドン」
粟井ミドリ	三味線に生きる
浅田尚宏	加里屋の紺屋
山本仁	石屋の仕事
北島恵子・魚本美智	髪結いの生活と苦労話
廣山堯道	製塩用語 その二
折方啓三・寺田祐子	商家の日常生活
折方啓三・寺田祐子	大工職人の生活
西畑俊昭	女主人(女性経営者)の苦労話
粟井ミドリ	(付)商いの符丁
谷口智子	建具職人の一生
篠宮欣子・佐野恵美	加里屋・上仮屋の民家
河部元一	祠(社)の分布
谷口智子・聳城順一	子供の遊び・若い衆の遊び
寺田祐子・西中正次	福栄座の芝居興業
寺田祐子・西中正次	大相撲の赤穂巡業
寺田祐子・西中正次	(付)富錦の引退相撲と赤穂の力士
中尾徹意	赤穂城下の盆踊り
中尾徹意	大正時代の義士祭(義士追慕会)
長棟成光	幻の雲火焼(一)大鳴黄谷のこと
長棟成光	幻の雲火焼(二)再現への試み
三谷百々	赤穂の焼塩(一)
三谷百々	赤穂の焼塩(二)
三谷百々	赤穂の戦死者第一号
矢野圭吾	御参府道中覚

『赤穂の民俗』その8 千種川流域編

平成元(1989)年3月31日刊行

著者名	論文名
廣山堯道	千種川に沿う村々の歴史
寺田祐子	千種川流域の衣食住
久保良道	藁屋根の生活 藁屋根葺き職人からの聞き書き
久保良道	千種川流域の牛の話
寺田祐子	付記 牛の買いつけ
久保良道	灌漑用水と人々のくらし
井上益雄	水の利と農業用水
北島恵子・魚本美智子	昭和初年の中広
北島恵子・魚本美智子	暮らしの知恵
折方彰子	農家の嫁
浅田尚宏	づれの洗い張り
大崎卓見	瓦の出来るまで
粟井ミドリ	表具師の仕事
谷口智子	千種川の舟運一渡し舟にまつわる話一
谷口智子	千種川流域に見られた子供の遊び
粟井ミドリ	千種川流域の年中行事
寺田祐子	楽しかった赤穂鉄道
三好一行	供花考
河部元一	千種川流域の神社
河部元一	千種川流域の石仏と祠
折方啓三	人生儀礼と葬送
粟井ミドリ	千種川流域の俗信と禁忌
三谷百々	囲み記事 野上鹿之助とその一族(一)
三谷百々	囲み記事 野上鹿之助とその一族(二)
三谷百々	囲み記事 野上鹿之助とその一族(三)

『赤穂の民俗』その9 尾崎編

平成2年(1990)年9月30日刊行

著者名	論文名
廣山堯道	尾崎の歴史 一(近世以前)
矢野圭吾	尾崎の歴史 二(近・現代)
寺田祐子	尾崎の衣食住
粟井ミドリ	味噌の仕込みと漬物
高瀬恵也	コンニャク(蒟蒻)の出来るまで
折方啓三	尾崎の人生儀礼
廣山堯道	塩売りの符丁
粟井ミドリ	尾崎の年中行事
河部元一	尾崎の町並み
北島恵子・魚本美智子	尾崎の屋号
三谷百々	尾崎の偉人
谷口智子	浜の生活
谷口智子	塩業労働者のくらし
折方彰子	尾崎の女性
寺田祐子	子供・若い衆の楽しみ
久保良道・西中正次郎	尾崎の秋祭り
河部元一	八幡宮の神幸式
西畑俊昭	尾崎の獅子舞
村上順教・斯波随覚	尾崎の宝専寺
粟井ミドリ	尾崎に伝わる俗信と禁忌
河部元一	尾崎の神社・祠・石仏
田淵美津	尾崎のことば
大崎卓見	左官職人の技法
粟井ミドリ	仏壇と漆塗り
三谷百々・鈴木さへ	お愛の病床日記

『赤穂の民俗』その10 福浦編

平成4(1992)年2月29日刊行

著者名	論文名
石中剛	福浦の歴史
聳城佳恵	福浦の地名の由来
河部元一	福浦の地名
川端二三子	福浦のことば
粟井ミドリ	福浦に伝わる俗信と禁忌
寺田祐子	福浦の衣食住
粟井ミドリ	福浦の年中行事
河部元一	福浦の獅子舞
折方啓三	福浦の人生儀礼
谷口智子	村の生活体験
川端二三子	私の村の民俗
岡田順一	子供の遊びと子供の仕事
三谷百々	福浦地区人物伝
岡田順一	青年団の活動
河部元一	福浦の神社・祠・石仏
久保良道	銃後の暮らしと弾丸(玉)よけ神社
廣山堯道	古池の塩田

『赤穂の民俗』その11 補遺編

平成6(1994)年10月31日刊行

著者名	論文名
魚本美智子	ある漁師の思い出話
魚本美智子	けい女の覚書
寺田祐子	赤穂海苔のはじまり
川端二三子	なつかしのだんじり唄
粟井ミドリ	頭人の散在史料
三好一行	高光寺の年中行事
井上益雄	東有年の民俗
浜田治一	赤穂の民俗(塩屋編)補遺
塚本君子	ある女性の大正・昭和
粟井ミドリ	づれの鍛冶屋
矢野圭吾	赤穂八幡宮前池の玉垣
谷口智子	明治末期における独身税務官吏の生活

(2) 社寺の年中行事一覧 (1)

赤穂・城西地区

宗派	社寺名	月行事	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
浄土宗	大蓮寺		修正会法要 御忌会	涅槃会	春彼岸法要	灌仏会				盂蘭盆会法要 盆施餓鬼法要	秋彼岸法要			
浄土真宗本願寺派	永應寺		門徒総参拝		永代経法要・彼岸会	花まつり 報恩講法要	宗祖降誕会			盂蘭盆会	別修永代経法要・彼岸会			除夜会
浄土真宗本願寺派	浄念寺		元旦会(修正会)	永代経法要			親鸞聖人降誕会法要		子供朝の集い		無縁経 戦没者追悼会法要		宗祖親鸞聖人報恩講法要	除夜会 除夜の鐘
浄土真宗大谷派	万福寺	同朋会			春季永代経法要	蓮如忌					秋季永代経法要		報恩講	
浄土真宗大谷派	妙慶寺	聞法会											報恩講	
日蓮宗	高光寺	唱題行	新年祝禱会 厄除け星祭	厄除け星祭 節分会 初午禱会	春季彼岸会 釈尊涅槃会	釈尊降誕会(花祭)				盂蘭盆施餓鬼法要 棚経 盆の墓回向 納骨所回向	七面大明神火伏祭 秋季彼岸会		御会式法要	除夜の鐘
法華宗	福泉寺		年頭祈禱会	節分会	春季施餓鬼会					棚経 お盆施餓鬼会	秋季施餓鬼会		御会式法要	
真言宗	常清寺			星祭		御大師祭								
曹洞宗	花岳寺	坐禅会 写経会	大般若経六百巻転 読法要 高祖(道元禪師)降 誕会 景永忌(長友公命 日)	義土忌法要 釈尊涅槃会	冷光忌(長矩公命 日)法要 宗偏流茶会 彼岸会	釈尊降誕会法要			久岳忌(藩祖長直 公命日) 盂蘭盆施餓鬼法要 赤穂藩主家法要	四万六千日観音法 要 写経奉納	花岳忌(長重公命 日) 彼岸会 月海忌(山鹿素行 師命日) 両祖(高祖太祖)忌	達磨忌	開山(秀巖龍田大 和尚)忌 太祖(壘山禪師)降 誕会	釈尊成道会法要 義士追慕法要 宗偏流茶会 除夜の鐘
臨済宗	玉龍院													
臨済宗	随鷗寺	坐禅会	修正大般若祈禱会		春季彼岸会		釈尊降誕会(花まつり)			山門大施餓鬼会 (総供養) お盆の棚経 地藏盆		開山忌		成道会
臨済宗	龍安寺													

塩屋地区

宗派	社寺名	月行事	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
浄土真宗本願寺派	真光寺		修正会	永代経法要	春季彼岸法要			初参式	無縁経法要	キッズサンガ	秋季彼岸法要	宗祖報恩講法要	別永代経法要	除夜会
浄土真宗本願寺派	安養寺		修正会法要 宗祖御正忌法要	永代経法要	春季彼岸法要	宗祖御誕生会 門信徒敬老会				盆会法要	秋季彼岸会法要		子ども報恩講 宗祖報恩講法要	除夜会
浄土真宗大谷派	光浄寺													
浄土真宗大谷派	専法寺				永代経						別永代経		報恩講	
日蓮宗	妙典寺	早朝唱題行 家内安全を祈り合う つどい 歌題目のつどい 写経	大歳三ヶ日初詣祈 禱会 大古久(大黒)天神 祭 おれお焚き上げ・初 講	厄除け星祭祈願会 豆まき 釈尊涅槃会並びに 宗祖御降誕会	春季彼岸会法要	春季鬼子母神大祭 日蓮宗開宗会 聞 法のつどい(高座説 教)	釈尊降誕会(花まつり)			盂蘭盆会施餓鬼法 要 盆の棚経 盆の墓回向 感謝と反省のつどい (だんご汁祭り) 盆の墓回向・精霊送 り火	宗祖龍口法難会 秋季彼岸会法要	秋季鬼子母神大祭	御会式法要	
日蓮宗	蓮岳寺		初詣祈禱会 先祖供養法要会 星祭厄除祭	星祭厄除祭	彼岸法要会			水子観音法要会		盆供養	秋の彼岸供養		御会式法要	お火焚き祭
臨済宗	流月院													

西部地区

宗派	社寺名	月行事	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
浄土真宗本願寺派	浄専寺		修正会	永代経	別永代経 勘之助忌	花まつり	降誕会			盂蘭盆会			報恩講	除夜会
浄土真宗本願寺派	専修寺		元旦会			報恩講法要	降誕会・永代経					別永代経		
浄土真宗本願寺派	法光寺			永代経法要		別永代経法要	降誕会法要・初参式			お盆法要		報恩講法要		除夜の鐘・修正会
臨済宗	恵照院				初午祭り					地藏盆				

(2) 社寺の年中行事一覧 (2)

尾崎地区														
宗派	社寺名	月行事	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
浄土真宗本願寺派	宝専寺		元旦会 御正忌・老人会物 故者追悼法要	永代経	春季彼岸会 別永代経・戦没者 追悼法要	報恩講	伝灯奉告法要 初参式 降誕会			盂蘭盆会・納骨所 法要	秋季彼岸会 無縁経・戦没者追 悼法要			
天台宗	如来寺													
天台宗	普門寺	写経会 薬師如来縁日 観音菩薩縁日 不動明王縁日	恵方福火焚焼(除 夜の行事) 十一面千手千眼観 世音菩薩本尊護摩 厳修	瑜伽大権現及び涅槃 会	彼岸先祖供養	釈迦降誕花祭り・彩 灯大護摩供養	巡拝			盂蘭盆供養 水子霊供養・地藏 盆	彼岸先祖供養		大般若会	

御崎地区														
宗派	社寺名	月行事	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
浄土宗	廣度寺		修正会 御忌会		彼岸会	灌仏会(花祭り)				盂蘭盆会 盆施餓鬼会	彼岸会	御十夜		佛名会 除夜会
浄土真宗大谷派	光徳寺		修正会		総永代経法要					お盆墓経 納骨堂法要	別永代経法要		報恩講	歳末勤行 除夜の鐘
日蓮宗	法雲寺		新年祝禱会	星まつり	春彼岸会	お釈迦さま誕生会	宝塔祭			盂蘭盆会	秋彼岸会		御会式法要	
曹洞宗	正福寺		新年祈禱		冷光忌法要 彼岸会	お大師まつり				盆供養会 地藏盆	彼岸会			義士追慕法要

高雄地区														
宗派	社寺名	月行事	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
浄土真宗大谷派	夕雲寺		修正会			春の別永代経会・彼 岸会				お盆会	秋の別永代経会・彼 岸会		報恩講	
浄土真宗大谷派	専念寺													
浄土真宗大谷派	安楽寺	宗祖親鸞聖人ご命 日のおつとめ	修正会		彼岸会	別永代経会	誕生会		子供会	子供会	別永代経会			報恩講 除夜の鐘
浄土真宗大谷派	常德寺		修正会		春季永代経会	仏教婦人会報恩講				盆会	秋の別永代経 老人会追弔会		報恩講	歳末法要
浄土真宗大谷派	龍泉寺	ご命日の集い	修正会 報恩講			永代経 聖徳太子命日法要	花まつり				別永代経			年末の集い 除夜の鐘

坂越地区														
宗派	社寺名	月行事	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
浄土真宗本願寺派	光蓮寺		元旦修正会		彼岸会	花祭り	永代経法要			盆会法要	彼岸会		報恩講法要	除夜の鐘・除夜会
浄土真宗本願寺派	正覚寺		元旦会 納骨堂法要 物故 者追悼法要	永代経法要		初参式・降誕会・別 永代経				盆会・納骨堂法要・ 盆踊り	彼岸会(仏婦追悼 会)コンサート			報恩講法要 除夜の鐘(除夜の鐘)
浄土真宗本願寺派	真覚寺		元旦会				降誕会			盂蘭盆会	永代経法要		報恩講	除夜会
浄土真宗本願寺派	妙道寺		元旦会 納骨堂法要 物故者追悼法要	永代経法要		初参式・降誕会・別 永代経				盆会・納骨堂法要・ 盆踊り	彼岸会(仏婦追悼 会)			報恩講法要 除夜の鐘(除夜の鐘)
浄土真宗本願寺派	誓教寺	仏教子ども会	元旦会 報恩講法座		彼岸・永代経法座	御絵解法要	宗祖降誕会法座			盂蘭盆会法座	彼岸・別永代経法 座			除夜会
真言宗	西山寺													
真言宗	妙見寺													
天台宗	長楽寺						花まつり(釈迦誕生 祭)							除夜の鐘
臨済宗	興福寺		正月行事	涅槃会		観音祭	花まつり			盆行事		開山忌		成道会
浄土真宗大谷派	専光寺		修正会		報恩講	春季永代経会				盆会	秋季永代経会			除夜の鐘

有年地区														
宗派	社寺名	月行事	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
真言宗	験行寺													
真言宗	光明寺	護摩祈願 写経	初護摩大師講法会	星まつり厄除け祈願 星供護摩祈願		土砂加持法要				地藏盆・施餓鬼法 会	御影供法会			除夜の鐘
浄土真宗大谷派	大円寺		修正会	涅槃会・戦没者追 弔会	春の彼岸会・永代経 法会	お釈迦様 花まつ り・親鸞聖人誕生会	上り法事(別永代 経)法会			盂蘭盆会・初盆会	秋の彼岸会		報恩講	除夜の鐘
浄土真宗本願寺派	明源寺					永代経	別永代経							報恩講
浄土真宗本願寺派	教専寺		修正会	仏教婦人会(徳風 会)報恩講	永代経法要		別永代経法要			子供報恩講			報恩講	除夜の鐘
浄土真宗本願寺派	浄泉寺					永代経法要			別永代経法要				報恩講	
浄土真宗本願寺派	淳泰寺		元旦会		永代経法要		別永代経法要			お盆会	彼岸会法要		報恩講法要	
浄土真宗本願寺派	阿弥陀寺													

(2) 社寺の年中行事一覧 (3)

神社名	月行事	1月	2月	3月	4月	5月	6月
赤穂大石神社		歳旦祭 元始祭 十日戎祭 とんど祭	義士自刃命日祭 初午祭 紀元祭 祈年祭	浅野内匠頭長矩侯 御命日祭	人形供養祭 春の義士祭	憲法記念日祭 こどもの日祭	お田植祭 大祓式・輪越し祭
赤穂八幡宮	月始祭 月次祭	初詣 歳旦祭 元始祭 とんど祭 厄除祭	節分 初午祭 祈年祭			三光神社祭	大祓式 輪越し祭
荒神社(塩屋)		左義長 歳旦祭・献詠祭 厄除祭 初詣					水無月輪越し祭
伊和都比売神社		歳旦祭 とんど					輪越し
大避神社(坂越)	月次祭	歳旦祭 初淡島祭 十日ゑびす祭 とんど祭 初天神祭	節分豆まき 初午祭 祈年祭		淡島・荒神・稲荷社 春祭		大祓式、輪こし祭
八幡神社(東有年)	月次祭	元旦歳旦祭 初淡島祭 とんど祭	節分祭 新年祭		春祭		お田植祭 輪こし祭

神社名	7月	8月	9月	10月	11月	12月
赤穂大石神社	ゆかたまつり 天神祭		敬老祭 森家遠祖追慕祭 山鹿素行祭	淡島祭 神嘗祭遥拜式 抜穂祭	明治祭 新嘗祭	義士祭 天長祭 除夜祭・大祓式
赤穂八幡宮	(宝崎神社にて) 水神祭 宝崎神社祭(ノット祭)			例祭 神幸式	金刀比羅祭 七五三詣 新嘗祭 (金刀比羅神社にて) 金刀比羅祭	大祓式
荒神社(塩屋)	境内神社夏季例祭			秋季例大祭	七五三行事	大祓式 除夜祭
伊和都比売神社	夏祭り			秋祭り		
大避神社(坂越)	夏まつり 天満神社新宮夏まつり		頭指祭	例大祭、祭神墓前 祭 宵宮祭、船渡御祭	新嘗祭	大祓式、除夜祭
八幡神社(東有年)			八朔祭	例大祭、宵宮祭 水神祭、荒神祭		大払式・除夜祭

(3) 市内の主な社寺一覧(神社)

神社名	所在地	祭神	境内神社
赤穂大石神社	上仮屋	大石良雄以下四十七士・茅野三平	稲荷神社・豊亮神社・笠間稲荷
蛭子神社	中広	蛭子尊	
伊勢神社	中広	天照皇大神	
稲荷神社	中広	宇迦之御魂神	淡島神社
井石神社	中広	弥都波能壳神	
荒神社	塩屋	素盞鳴尊	伊勢神社・稲荷神社
日吉神社	新田	香山戸神・羽山戸神・大山咋神	稲荷神社・天満神社・水神社
八幡神社	大津	菅田別命・足仲彦神・息長足姫命	稲荷神社・巖島神社
鍋ヶ森神社	大津	弁財天	
荒神社	木生谷	素盞鳴尊	春先大明神
八幡神社	折方	仲哀天皇・神功皇后・応神天皇	稲荷神社・荒神社・天王社・天神社・権現神
荒神社	鷗和	素盞鳴尊	太宰神社・銭島八幡神社
荒神社	鷗和	素盞鳴尊	八幡神社
八幡神社	福浦	仲哀天皇・神功皇后・彦火火出命	金毘羅社・荒神社
愛宕神社	福浦	火彦霊命	
龍神社	福浦	綿津見神・小童神・大山紙神・道祖神	稲荷神社・恵比須神社
荒神社	福浦	素盞鳴尊	
塩釜神社	福浦	塩土老翁神・武甕神・経津主	
八幡宮	尾崎	応神天皇・仲哀天皇・神功皇后	三光神社・稲荷神社・荒神社・若宮社・稲荷
金毘羅神社	尾崎	大物主神・崇徳天皇	塩釜神社・天神社
宝崎神社	尾崎	神功皇后	水神社・稲荷社
伊和都比賣神社	御崎	伊和都比賣神	恵比須神社・金刀比羅神社・塩釜神社
大避神社	中山	秦河勝	天満神社・荒神社・妙見堂
大龍権現	中山	大龍権現	
荒神社	目坂	火魂神	稲荷神社
天満神社	真殿	菅原道真	三宝荒神社
八幡神社	周世	菅田別命・息長足姫命・武内宿禰	荒神社(二社)
荒神社	高雄	火魂神	
尼子神社	高野	尼子将監義久	豊受火明神・地神社・ニイガキ社・三宝荒神社
大避神社	木津	秦河勝	最上稲荷神社・荒神社
大避神社	坂越	天照皇大神・秦河勝・春日大神	厩戸神社・海神社・金刀比羅大神・稲荷神社・蛭子神社・荒神社・住吉大神・天満神社・淡島大明神
荒神社	浜市	火魂神	稲荷社
荒神社	浜市	火魂神	
天満神社	北野中	菅原道真	春日神社・荒神社
愛宕神社	北野中	愛宕権現	
春日神社	南野中	天児屋根命	水神社・金毘羅社
荒神社	砂子	火魂神	
八幡神社	有年牟礼	足仲津彦命・品陀和気命・息長帯姫命	素盞鳴尊・豊受姫命・大避大神・須賀神社・海神社
須賀神社	有年横尾	素盞鳴尊	
須賀神社	有年原	素盞鳴尊	
八幡神社	東有年	菅田別命・息長足姫命・帯中津彦命	八幡神社・荒神社
須賀神社	有年檜原	素盞鳴尊	
須賀神社	有年檜原	素盞鳴尊	
大避神社	西有年	大避大神	新宮神社・天神社・須賀神社

河部元一 2003「赤穂市内の宗教施設」『やさしい赤穂の歴史』下(財)赤穂市文化振興財団に加筆

(3) 市内の主な社寺一覧（寺院）

寺院名	所在地	宗派名	本尊	境内にある仏堂
大蓮寺	加里屋	浄土宗	阿弥陀仏	観音堂
浄念寺	加里屋	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
万福寺	加里屋	真宗大谷派	阿弥陀仏	
妙慶寺	加里屋	真宗大谷派	阿弥陀仏	
高光寺	加里屋	日蓮宗	釋迦仏	妙見堂・七面堂・妙松堂
福泉寺	加里屋	法華宗	曼陀羅	
常清寺	加里屋	真言宗	大日如来	地藏堂・観音堂
花岳寺	加里屋	曹洞宗	釋迦仏	禅堂・開山堂・報恩堂
玉竜院	加里屋	臨済宗	聖観音	阿弥陀堂・地藏堂
隨鷗寺	加里屋	臨済宗	聖観音	開山堂・地藏堂
永應寺	中広	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
真光寺	塩屋	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
蓮岳寺	塩屋	日蓮宗	釋迦仏	龍王堂・観音堂
光浄寺	新田	大谷派	阿弥陀仏	
安養寺	大津	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
妙典寺	大津	日蓮宗	釋迦仏	祖師堂・妙見堂
専法寺	木生谷	真宗大谷派	阿弥陀仏	
流月院	木生谷	臨済宗	聖観音	
浄専寺	折方	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
恵照院	折方	臨済宗	釋迦仏	観音堂
専修寺	顛和	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
法光寺	福浦	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
宝専寺東院	尾崎	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
宝専寺西院	尾崎	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
如来寺	尾崎	天台宗	阿弥陀仏・観音	
普門寺	尾崎	天台宗	十一面千手観音	太子堂・大師堂
廣度寺	御崎	浄土宗	阿弥陀仏	地藏堂・納骨堂
光徳寺	御崎	真宗大谷派	阿弥陀仏	
法雲寺	御崎	日蓮宗	釋迦仏	
正福寺	御崎	曹洞宗	如意輪観音	
夕雲寺	真殿	真宗大谷派	阿弥陀仏	
専念寺	周世	真宗大谷派	阿弥陀仏	
神護寺	周世	天台宗	聖観音	山王堂・経王堂
安楽寺	高雄	真宗大谷派	阿弥陀仏	
常德寺	目坂	真宗大谷派	阿弥陀仏	
誓教寺	高野	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
龍泉寺	木津	真宗大谷派	阿弥陀仏	
光蓮寺	浜市	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
西山寺	浜市	真言宗	十一面観音	阿弥陀堂
正覚寺	砂子	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
長楽寺	砂子	天台宗	聖観音	阿弥陀堂
真覚寺	北野中	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
興福寺	北野中	臨済宗	聖観音	
専光寺	南野中	真宗大谷派	阿弥陀仏	
妙道寺	坂越	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
妙見寺	坂越	真言宗	薬師如来・如意輪観音	
驗行寺	有年横尾	真言宗	大日如来・不動尊	
明源寺	有年原	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
教専寺	有年檜原	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
阿弥陀寺	有年檜原	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
光明寺	東有年	真言宗	千手観音	地藏堂・淡島社
浄泉寺	東有年	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
淳泰寺	西有年	浄土真宗本願寺派	阿弥陀仏	
大円寺	西有年	大谷派	阿弥陀仏	

出典：河部元一 2003「赤穂市内の宗教施設」『やさしい赤穂の歴史』下（財）赤穂市文化振興財団に加筆

コラム 赤穂の自然災害

※赤穂市役所 1981『災害の記録』に、近年のデータを追加した。

年	内 容
寛文6(1666)年	12月8日 洪水
寛文8(1668)年	5月4日 大雨、暴風
寛文9(1669)年	3月13日 大風雨
寛文12(1672)年	6月27日 暴風
寛文12(1672)年	8月17日 大風大潮にて御崎新浜村の塩浜堤切れる
寛文13(1673)年	5月12～14日 大雨、尾崎川堤124間・塩浜堤146間切れる
延宝2(1674)年	3月 ? 洪水
延宝2(1674)年	4月11日 洪水(雨1月より降りやまず)
延宝2(1674)年	9月 ? 高潮、洪水、海辺は大半破堤
延宝3(1675)年	大地震
延宝7(1679)年	7月10日 大風、破堤、2000間余、潰家27軒
天和3(1683)年	6月26日 大雨、赤穂城下・塩浜等に大被害あり 新浜破堤4カ所
貞享3(1686)年	7月25日 大風雨、御崎新浜村で堤切れる 8カ所
貞享4(1687)年	10月10日 大雨・洪水、領内大被害 破堤27,826間
元禄5(1692)年	5月8日 大水、2丁目中の石段1つまで浸水
元禄6(1693)年	6月25日 大風、高潮、大水、破堤1カ所、12間
元禄6(1693)年	7月27日 大地震
元禄8(1695)年	7月21日 大風雨、尾崎・新浜で潰家14軒 釜屋65軒全潰
元禄14(1701)年	8月14～17日 大雨・洪水、城内外で浸水する
元禄15(1702)年	6月2日 大水、渡し場で1人死亡
元禄15(1702)年	7月28日 高波で西浜塩田堤防の一部損潰する
元禄15(1702)年	8月29日 高波で西浜塩田堤防の一部損潰する
元禄年中	小広門村、洪水で中村に移り廃村となる
宝永元(1704)年	7月23日 大風、高潮、海辺破堤
宝永2(1705)年	5月27日 大洪水、高野村で堤切れる
宝永3(1706)年	6月25日 大風、高潮、浜堤破堤
宝永4(1707)年	8月19日 大風・大地震による塩田大被害あり 大風、高潮、破堤により加里屋、上飯屋、新田に浸水、矢倉、本丸損傷
宝永4(1707)年	9月12日 大風、高潮、大水、破堤、床上2寸浸水
宝永4(1707)年	10月4日 大地震、大地割れ、家いたみ町中の寺の屋根瓦落ちる
享保6(1721)年	7月10日 大風、潰家8軒
享保11(1726)年	5月27日 大洪水、家50軒流失する
享保14(1729)年	8月19日 大風雨、浜土手・堀切れる
享保16(1731)年	8月4日 大雨、高野、清水破堤
元文元(1736)年	5月8日 洪水、根木破堤
元文元(1736)年	5月26～27日 洪水(堤切2,802間・流家64軒)
元文2(1737)年	6月4日 洪水、破堤1,450間、家屋流出5軒、潰家19軒、死者2人
元文3(1738)年	5月9日 大風雨、潰家、破舟あり
元文5(1740)年	6月3日 大雨、洪水、高野破堤70間
寛保3(1743)年	8月11日 大風、高潮、所々大いたみ
延享元(1744)年	8月10日 大風高潮、赤穂藩領田畑の荒れ19,469石に及ぶ
延享2(1745)年	6月4日 大雨 市域での堤切れ1,630間、田畑の損毛3,760石余
延享5(1748)年	6月3日 洪水、破堤 2,075間、潰家43軒、家屋流失48軒
寛延2(1749)年	7月2日 洪水、堤切れ 2,241間、流家48軒
明和元(1764)年	8月3日 大雨、坂内17カ所堤切れ、流出・潰家多数、浜8カ所切れる
明和9(1772)年	8月20日 大風雨、洪水、新町、居村潰家4軒
安永5(1776)年	12月18日 落雷で角櫓焼失
天明5～6(1785～1786)年	洪水、風雨、早魃
天明8(1788)年	6月18日 大洪水、庄内破堤、潰流失家屋多数、溺死1人
寛政元(1789)年	6月18日 洪水、田畑の損毛5,505石余、堤切れ3,467間、家屋流失123・倒潰154軒、溺死11人
寛政元(1789)年	11月4日 洪水、川沿い・市域村々の被害168町6反余(高2,855石余)
寛政4(1792)年	7月26日 大風雨・大潮にて城櫓外破損、土手363間痛み、潰家238軒など被害甚大
寛政6(1794)年	6月11日 大夕立、大洪水、田端潰家3軒、死者あり
寛政6(1794)年	7月12日 大風、潰家15軒
寛政8(1796)年	8月11～12日 大風雨、洪水、高潮、高野、根木、中村破堤3カ所
享和2(1802)年	8月 高潮により塩田堤防切れる
文化元(1804)年	8月30日 大風雨、高潮、浜堤破堤
文化4(1807)年	大津村湯の内池の堤切れ、溺死者あり
天保9(1838)年	7月21日 大雨のため周世・高野村で氾濫する
天保13(1842)年	6月4日 洪水、高雄破堤1カ所、死者1人
安政元(1854)年	11月4日 大地震、赤穂城・侍屋敷・町・在詰所大痛み。以後年未まで小地震続く
安政4(1857)年	6月26日 大風、坂越潰家100軒、生島の樹木倒れ甚し
安政4(1857)年	7月1日 大風雨、瓦・納屋・樹木吹き倒れ、高潮で10カ所切れる
明治3(1870)年	8月 尾崎川切込み、13番堤防決潰
明治15(1882)年	7月下旬 大風、坂越2人死亡
明治15(1882)年	8月4～6日 風雨、高潮、千種川氾濫、有年、高雄、新浜にて破堤9カ所145間、潰家20軒

年	内 容
明治15(1882)年	8月29日 暴風雨、福浦村被害
明治17(1884)年	8月26日 暴風雨、津波、浜堤破堤20間、有年潰家3軒
明治19(1886)年	9月10日 風水害郡内潰家、田畑流失あり
明治21(1888)年	7月31日 台風、水害、潰家、浸水あり
明治23(1890)年	9月16～17日 大風雨、洪水、野中、中村破堤、高雄村潰家2軒
明治24(1891)年	8月16～17日 暴風、津波、千種川氾濫、浜堤破堤4カ所
明治24(1891)年	9月14日 台風、千種川氾濫、浜堤破堤24カ所、坂越潰家10軒
明治25(1892)年	7月23日 千種川堤防が決潰し、大水害となる 家屋流失569軒、潰家252軒、死者79人
明治27(1894)年	9月11日 風水害、高雄潰家7軒
明治29(1896)年	7月21日 暴風雨、洪水、浜堤破堤、各地浸水
明治30(1897)年	9月29日 洪水、塩屋浸水
明治32(1899)年	8月28日 大風、大洪水、破堤、潰家83軒、死者3人
明治35(1902)年	8月11日 台風、千種川破堤1,308カ所、橋梁345カ所、家屋全壊21軒
明治42(1909)年	9月10日 台風、千種川破堤309カ所、橋梁127カ所、道路167カ所、建物全壊119軒
大正7(1918)年	7月11～12日 風水害、千種川水位13.8尺、床下浸水300軒、河川決潰378カ所、破損424カ所、道路499カ所、橋梁271カ所
昭和8(1933)年	8月13日 台風、有年浸水18軒
昭和9(1934)年	9月21日 室戸台風、千種川水位3.05m、重軽症者8人、住家全壊13軒、住家半壊11軒、浸水299軒、船舶2件
昭和12(1937)年	9月11日 台風 住家全壊26軒、住家半壊9軒、浸水33軒、堤防1カ所、橋梁1カ所
昭和13(1938)年	9月5日 台風、住家全壊5軒、床上浸水94軒、床下浸水1,701軒、道路45カ所、橋梁14カ所、河川167カ所
昭和19(1944)年	塩田、風水害を受ける
昭和20(1945)年	9月17～18日 枕崎台風、東浜の被害1,634,750円
昭和24(1949)年	6月19日 デラ台風、住家全壊4軒、床上浸水50軒、床下浸水23軒、堤防29カ所、道路3カ所、橋梁11カ所、山崩2カ所
昭和25(1950)年	9月3日 台風(ジェーン) 床下浸水300戸、道路1カ所、堤防1カ所
昭和26(1951)年	10月15日 台風(ルース) 住宅全壊3戸
昭和29(1954)年	9月26日 台風15号(洞爺丸)
昭和34(1959)年	9月26日 台風15号(伊勢湾) 住宅全壊2戸
昭和35(1960)年	8月29日 台風16号 床上浸水200戸、床下浸水770戸
昭和36(1961)年	6月27～29日 台風6号 住宅全壊3戸、崖崩れ1カ所
昭和36(1961)年	9月15～16日 台風18号(第2室戸) 住宅全壊4戸、床上浸水75戸、床下浸水3,150戸
昭和37(1962)年	6月10日 梅雨 山崩れ1カ所
昭和38(1963)年	7月11日 台風7号 床下浸水3戸
昭和39(1964)年	9月25日 台風20号 床下浸水10戸、瓦破損飛散件数1,731件
昭和40(1965)年	7月22日 集中豪雨 矢野川氾濫
昭和40(1965)年	7月23日 尾崎川馬町山崩れ
昭和40(1965)年	9月10日 台風23号 9月13～17日 台風24号 住宅全壊6戸、床上浸水49戸、床下浸水3,781戸、塩田堤防崩壊6カ所
昭和42(1967)年	7月8～9日 集中豪雨 土砂崩れ3カ所、堤防地割れ1カ所、堤防決壊(大津川)
昭和43(1968)年	7月30日 集中豪雨 山崩れ1カ所、床下浸水100戸
昭和43(1968)年	9月24日 台風16号 床上浸水2戸、床下浸水1戸
昭和44(1969)年	6月25日 集中豪雨 崖崩れ2カ所、土砂崩れ1カ所
昭和44(1969)年	6月29日 集中豪雨 土砂崩れ2カ所、山崩れ2カ所
昭和44(1969)年	7月1日 集中豪雨 崖崩れ2カ所
昭和45(1970)年	8月14～15日 台風9号 集中豪雨 崖崩れ39カ所、床上浸水110戸、床下浸水5,200戸、河川溢水15カ所
昭和45(1970)年	8月21日 台風10号 橋梁流失1カ所、床上浸水2戸、床下浸水54戸、溢水箇所2カ所
昭和46(1971)年	7月18日 集中豪雨 床上浸水51戸、床下浸水511戸、河川決壊6カ所、橋梁流失1カ所、崖崩れ11カ所、住宅全壊1戸
昭和46(1971)年	7月26日 集中豪雨 住宅全壊2戸
昭和46(1971)年	8月30日 台風23号 河川溢水2カ所
昭和47(1972)年	6月27日 集中豪雨 崖崩れ1カ所、河川溢水1カ所、堤防決壊1カ所
昭和47(1972)年	7月11～13日 堤防決壊5カ所、地割れ2カ所、堤防溢水6カ所、堤防浸食3カ所、山・崖崩れ19カ所
昭和48(1973)年	7月2日 集中豪雨 床上浸水6戸、床下浸水、498戸、堤防決壊6カ所、堤防溢水5カ所、崖崩れ5カ所
昭和49(1974)年	7月6～7日 台風8号による洪水、住宅全壊12戸、床上浸水702戸、床下浸水8,037戸
昭和50(1975)年	8月22日 台風6号 堤防浸食1カ所
昭和51(1976)年	9月8～13日 台風17号による大洪水 住宅全壊11戸、床上浸水1,759戸、床下浸水8,090戸
平成2(1990)年	9月17～20日 台風19号 床上浸水3戸、床下浸水106戸 山地崩壊2カ所、河川損壊4カ所、道路損壊8カ所、農地冠水
平成9(1997)年	7月26～28日 道路崩壊3カ所
平成10(1998)年	10月17～18日 台風10号 床上浸水2戸、床下浸水10戸 産地崩壊2カ所、農地冠水5ha
平成11(1999)年	9月15日 台風16号 床上浸水2戸、床下浸水28戸
平成16(2004)年	8月30～31日 台風16号による高潮 床上浸水9戸、床下浸水43戸、その他道路損壊、漁港施設損壊
平成16(2004)年	9月7～8日 台風18号 床下浸水5戸
平成16(2004)年	10月19～20日 台風23号 床下浸水1戸、田畑冠水、土木・農林・教育関係施設被害
平成21(2009)年	8月9～10日 台風9号 農地冠水34.5h、千種川河川敷、農林水産施設に被害
平成23(2011)年	9月16～17日 大雨 床下浸水2戸
平成24(2012)年	7月6～7日 大雨 床下浸水49戸

(4) アンケート調査結果

ア. 対象

アンケートは、小学生・中学生約 3,000 名に対して学校を通じて配布した。回収枚数 2,515 枚（84%）の内訳は、小学生 1,390 人、中学生 1,125 人であった。

イ. 内容

アンケートの設問は「赤穂の「いいトコ」おしえてください」とし、未来に残したいもの、自慢できるもの、大事だと思うものなどについて、子どもたちの目線で赤穂市を見つめてもらうものとした。回答は自由記述式で、文章のほかイラストや絵による表現も可とした。「赤穂のいいトコ」には数の制限を設けず、一人で複数回答ができる方式とした。

ウ. 集計方法

- a. 描かれたイラストや文章から、キーワードを抽出した。
1枚に複数書かれている場合は、分野ごとに一つずつ抽出した。
- b. 抽出したキーワードをリスト化し、出現回数を数えた。
- c. 出来上がったリストを、キーワードごとに分類した。

エ. アンケート結果の展示公開

このアンケートの結果は平成 29 年 5 月 13 日（土）～ 21 日（日）まで、赤穂市立図書館・ギャラリーにて「あこうのいいトコ、どんなトコ？展」と題して公開展示した。

オ. アンケートの回答

全体結果とともに、詳細について報告する。

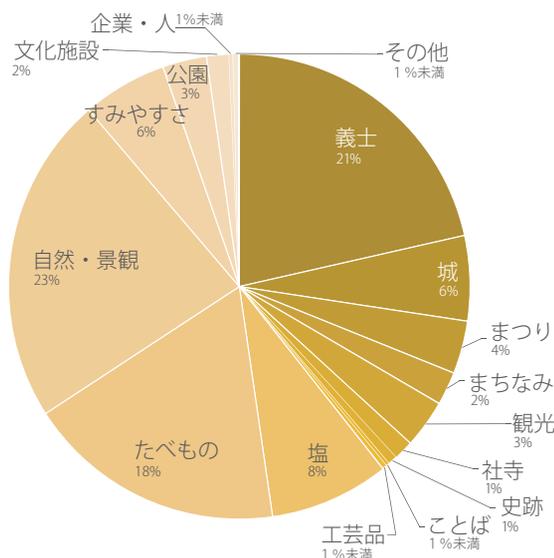


図 36 アンケートの全体結果

a 義士	1,556
b 城	465
c まつり	266
d 観光	244
e まちなみ	168
f 社寺	102
g 史跡	46
h 工芸品	22
i ことば	17
j 塩	608
k たべもの	1,313
l 自然・景色	1,659
m 公園	224
n 文化施設	11
o 住みやすさ	430
p 企業・人	20
q その他	32

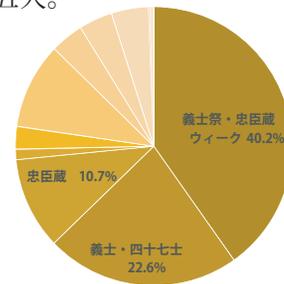
カ. 分類された種別ごとの詳細結果

a. ～ q. の各分野の%表示は、小数点以下の下2桁を四捨五入。

a. 義士

全回答数 1,556 件中の上位を記す。

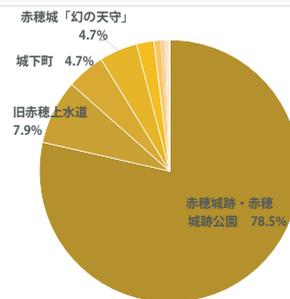
- ①義士祭・忠臣蔵ウィーク 625 件 40.2%
- ②四十七士 352 件 22.6%
- ③忠臣蔵 166 件 10.7%



b. 赤穂城と城下町

全回答数 465 件中の上位を記す。

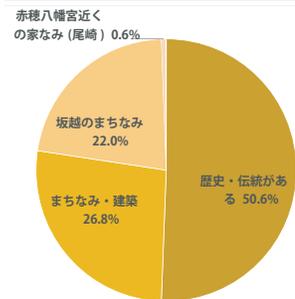
- ①赤穂城跡 366 件 78.5%
- ②旧赤穂上水道 37 件 7.9%
- ③城下町 22 件 4.7%
- ③赤穂城「幻の天守」 22 件 4.7%



c. まちなみ

全回答数 168 件中の上位を記す。

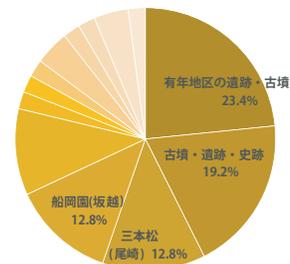
- ①歴史・伝統がある 85 件 50.6%
- ②まちなみ・建築 45 件 26.8%
- ③坂越のまちなみ(建築) 37 件 22.0%



d. 史跡(義士関連以外)

全回答数 46 件中の上位を記す。

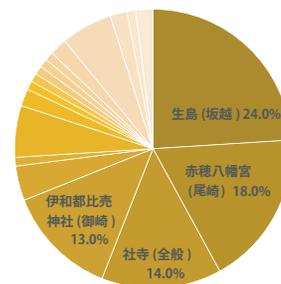
- ①有年地区の遺跡・古墳 11 件 23.4%
- ②古墳・遺跡・史跡 9 件 19.2%
- ③三本松(尾崎) 6 件 12.8%
- ③船岡園(坂越) 6 件 12.8%



e. 社寺

全回答 102 件中の上位を記す。

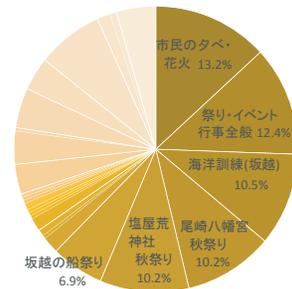
- ①生島 24 件 24.0%
- ②赤穂八幡宮 18 件 18.0%
- ③社寺全般 14 件 14.0%
- ④伊和都比売神社 13 件 13.0%



f. 祭り・行事

祭礼・伝統行事 112 件、新しい催し 104 件、全回答 266 件中の上位を記す。

①市民の夕べ	35 件	13.2%
②祭り・イベント・行事全般	33 件	12.4%
③海洋訓練	28 件	10.5%
④塩屋荒神社秋祭り	27 件	10.2%
④尾崎八幡宮秋祭り	27 件	10.2%



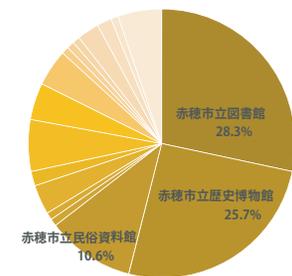
g. ことば・民話

全回答 17 件中、①赤穂弁・播州弁に関する記述 15 件、②民話や昔話に関する記述 2 件

h. 文化施設・文化活動

文化施設 99 件、文化活動 14 件、全回答 113 件中の上位を記す。

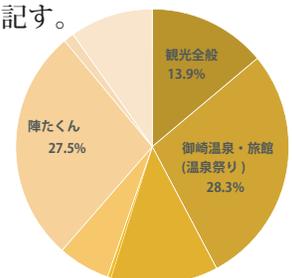
①赤穂市立図書館	32 件	28.3%
②赤穂市立歴史博物館	29 件	25.7%
③赤穂市立民俗資料館	12 件	10.6%



i. 観光・レジャー

観光・レジャー 150 件、広報・PR 94 件、全回答 244 件中の上位を記す。

①御崎温泉・旅館(温泉まつり)	69 件	28.3%
②陣たくん(赤穂市マスコット)	67 件	27.5%
③観光	34 件	13.9%

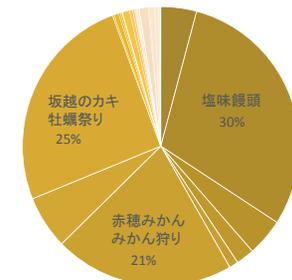


j. 塩

全回答 608 件中①塩・塩田に関する記述 555 件、②海洋科学館・塩の国に関する記述 53 件

k. 塩以外の特産物・食べ物

①塩味饅頭	395 件	30.1%
②坂越のカキ・牡蠣まつり	335 件	25.5%
③赤穂みかん・みかん狩り	276 件	21.0%



l. 工芸

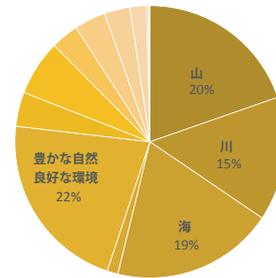
全回答 22 件中、①雲火焼に関する記述 9 件、②赤穂緞通に関する記述 13 件。

m. 自然・景観

全回答 1610 件中、①自然に関する記述 1315 件、②景観に関する記述 295 件。
上記①②の詳細な内訳を記す。

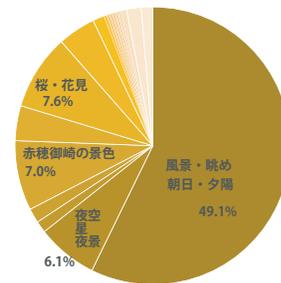
①自然に関する回答

ア. 豊かな自然・良好な環境	283 件	21.5%
イ. 山	257 件	19.5%
ウ. 海	253 件	19.2%
エ. 川	192 件	14.6%



②景観

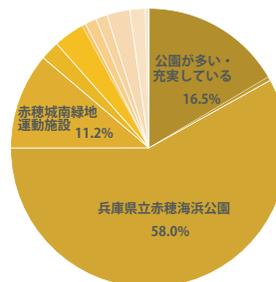
ア. 風景・眺め・朝日・夕日	169 件	49.1%
イ. 桜・花見	26 件	7.6%
ウ. 赤穂御崎の景色	24 件	7.0%
エ. 夜空・星・夜景	21 件	6.1%



n. 公園・緑地

全回答 224 件中の上位を記す。

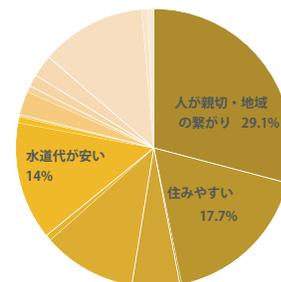
①兵庫県立赤穂海浜公園	130 件	58.0%
②公園が多い・充実している	37 件	16.5%
③赤穂城南緑地運動施設	25 件	11.2%



o. 住みやすさ

全回答 430 件中の上位を記す。

①人が親切・地域のつながり	125 件	29.1%
②住みやすい	76 件	17.7%
③水道代が安い	59 件	13.7%



p. 赤穂の企業・人物

全回答 20 件中①企業に関わる記述 9 件、②人物に関わる記述 11 件。

q. その他

前述の項目のいずれにも当てはまらなかったもの、判読不明、無回答の総数は 32 件。

キ. アンケート結果の考察

本アンケートの最大の特徴は、市内の小中学校生徒児童の約84%にあたる回答を得たことである。「赤穂のいいトコ」と題したアンケートには「未来に残したいもの、市外へ自慢できるもの、好きなもの、大事だと思うもの、面白いと思うもの」と例示し、「みんなのまちのいいトコ」を記載してもらった。その結果浮かび上がってきた傾向がいくつか認められた。

まず予想された結果として、「赤穂義士」関係の回答が21%（1,556件）を占めたことがある。うち約3分の2が義士祭（652件）や赤穂義士（352件）と回答し、残り3分の1は義士関係の史跡等の回答となった。これは、子どもたちにも「赤穂＝義士のまち」という認識が得られている証拠と言えよう。また関連して赤穂城という回答（366件）も赤穂義士（352件）を上回っており、認知度が高かった。

次に、認識を新たにした結果として、「たべもの」（1,313件）や「自然・景色」（1,659件）のテーマについて想像以上の回答があったことが挙げられる。たべものは牡蠣335件、みかん276件、塩味饅頭395件の3項目で約8割を占めており、特にほかと比べて歴史の浅い牡蠣のポイントが高い点が注目される。また塩（608件）は特別に分けなければならないほど回答が多く、単独で比較しても赤穂義士（352件）や赤穂城（366件）よりも認知度が高い。

「自然・景色」については当初、子どもたちにとっては日常的な景観であるため、回答数があまり多くないのではとの目論見があったが、見事に期待を裏切り、1,610件もの回答が得られた。内訳としては山（257件）、海（253件）、川（192件）と自然景観がまんべんなく回答されているのに加え、風景・眺め・朝日・夕陽（169件）、水がきれい・おいしい（86件）、空気がきれい（53件）、災害が少ない（49件）、気候が温暖（43件）といった、本来は外部から見なければわからないような様々な赤穂市の自然や景観の魅力に気付いている点、子どもたちの赤穂市への眼差しを感じることができよう。これと関連して「住みやすさ」のテーマでは人が親切・地域のつながり（125件）を挙げる回答が目立った。

今回のアンケートに回答した子どもたちは、まさしく将来の赤穂市を背負って立つ立場にある。本アンケートのように、自然景観、歴史の豊かさ、食の魅力、そして人々の温かさに気付いている子どもたちが多かったことに、赤穂市の明るい未来が見えたのは事実であり、今後もその魅力を子どもたちに伝えていく努力が必要と思われた。

おわりに

本構想は、赤穂市の歴史文化遺産の基礎資料として制作しました。

例えば小中学生が地域学習をする時、地域住民がまちの歴史を知りたいときや、来訪者に観光案内するとき、地域団体がまち歩きやウォーキングルートを開発するとき、民間企業が周辺の観光パンフレットを制作するときなど、様々な場合の基礎資料として利用していただければ幸いです。また本構想はあくまで概要版であり、取り上げられた歴史文化遺産にはそれぞれの長い歴史があります。これを基礎資料としてより深く歴史文化遺産を調べたり、本構想に掲載されていない歴史文化遺産を発見したりするのも楽しいことでしょう。

本構想を見ていただければ、みなさんがお住まいの地域には、本当に多くの歴史文化遺産と深い歴史があるのだということが理解いただけるのではないのでしょうか。心の中に、こうした地域の宝をみんなに知ってほしいという気持ちがもし芽生えたのならば、本構想の目的は達成されました。

身近すぎて気づかなかった地元の歴史を知ると、その歴史の深さを誰かに伝えたくありませんか。例えばインターネットを通して広く情報発信したり、フリーペーパーに記事として取り上げたり、それぞれのやり方で地域の宝を伝えてみませんか。

あなたが一歩踏み出すことで、地域に伝わる数多くの歴史文化は観光やまちづくりの貴重な素材として、活かされることになります。地域がもつ素材の豊かさこそがまちづくりの原動力なのです。本構想を使って、地域の宝をめぐり、地域のいいトコ、赤穂のいいトコをもっと発見してください。

そしてみんなで地域の歴史文化を守り、次世代に継承し、赤穂を訪れる人に伝えていきましょう。

赤穂市歴史文化基本構想

平成30(2018)年1月31日 策定
平成30(2018)年6月29日 刊行

制 作 兵庫県赤穂市
〒678-0292 兵庫県赤穂市加里屋81番地
TEL 0791-43-3201 FAX 0791-43-6892

編 集 赤穂市教育委員会 生涯学習課 文化財係
〒678-0292 兵庫県赤穂市加里屋81番地
TEL 0791-43-6962 FAX 0791-43-6895

印 刷 赤穂孔版
〒678-0239 兵庫県赤穂市加里屋新町98
TEL 0791-42-3291
